Nikon

デジタルカメラ

クールピクス A

使用説明書

Jp

カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。

❏ アクセサリーシューカバー BS-1

❏ COOLPIX Aカメラ本体

❏ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL20（端子カバー付）

❏ バッテリーチャージャー MH-27

❏ ストラップ（📖iv）

❏ USBケーブル UC-E16

❏ ViewNX 2 CD-ROM

❏ 使用説明書（本書）

❏ 保証書

❏ 登録のご案内

- SDメモリーカード（以下、SDカード）は付属していません。このカメラで使えるSDカードについては、📖244をご覧ください。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。
- 万一、不足のものがありましたら、ご購入店にご連絡ください。

⚠安全上のご注意

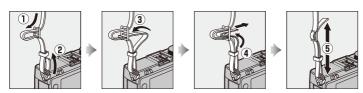
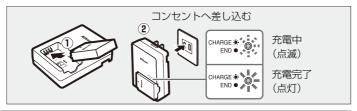
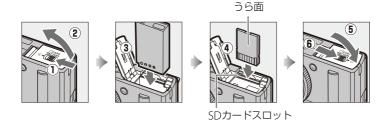
安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは📖vi～xをご覧ください。

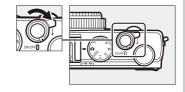
この使用説明書について

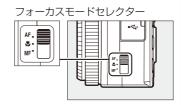
この使用説明書では、次から知りたいことを簡単に探し出すことができます。

すぐに撮影する方のために

「安全上のご注意」（🕮vi）を必ずお読みください。
次の手順で操作すると、すぐに撮影ができます。

1　左右のストラップ取り付け部にストラップを取り付ける

2　バッテリーを充電する（🕮19）

3　カメラにバッテリーとSDカード（別売）を入れる（🕮20、21）

4 カメラの電源をONにする（□3）

- ご購入後はじめてお使いになるときは、日付と時刻を設定してください（□23）。

5 フォーカスモードセレクターをAF（通常AF）にする（□68）

フォーカスモードセレクター

6 構図を決める（□26）

7 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する（□27）

- ピントが合うと、AFエリアが緑色の点灯に変わります。

8 撮影した画像を確認する（□30）

▶ボタン

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は以下のようになっています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告（カメラについて）

分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと
感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと
発火したり感電の原因となります。

電池を取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

禁止

通電中のカメラに長時間直接触れない
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因になります。

発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと
事故の原因となります。

発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと
視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。

保管注意

幼児の口にはいる小さな付属品は、幼児の手の届く所に置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。

保管注意

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと
首に巻き付いて窒息の原因となります。

警告

指定の電源（電池またはACアダプター）を使うこと
指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

使用禁止

ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

禁止

通電中のACアダプターに長時間直接触れない
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

注意（カメラについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚などにカメラを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

使用注意

航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする
病院では、病院の指示に従う
本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。Eye-Fiカードは、あらかじめカメラから取り出してください。

電池を取る

プラグを抜く

長期間使用しないときは電源（電池またはACアダプター）を外すこと
電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。
ACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因になることがあります。

発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと
やけどや発火の原因になることがあります。

禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと
内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。

禁止

付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと
機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池を分解しない
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX Aに対応しています。EN-EL20に対応していない機器には使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用禁止

充電には専用の充電器を使う
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しない
ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。
持ち運ぶときは、端子カバーをつけてください。

危険

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意

電池は、幼児の手の届く所に置かない

幼児の飲み込みの原因となります。飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

使用禁止

変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

充電の際に、所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは充電をやめる

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、ビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。

ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

警告（バッテリーチャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

すぐに修理依頼を

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

プラグを抜く

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

すぐに修理依頼を

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

禁止

通電中のバッテリーチャージャーに長時間直接触れない

使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因になります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると、火災の原因になります。

使用禁止

雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電の原因となります。

禁止

海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと
発熱、故障、火災の原因となります。

注意（バッテリーチャージャーについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。

放置注意

製品は、幼児の手の届く所に置かない
ケガの原因になることがあります。

禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

危険（リモコン（別売）用リチウム電池について）

危険

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告（リモコン（別売）用リチウム電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池を分解しない
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと
液もれ、発熱の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届く所に置かない
幼児の飲み込みの原因となります。飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。

警告

電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

充電式電池以外は充電しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池を廃棄するときは、ビニールテープなどで接点部を絶縁すること
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

●カスタマー登録のお願い

下記のホームページから登録をお願いします。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載の登録コードをご用意ください。

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品の Li-ion リチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

ホログラムシール

説明書について

- 説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 説明書が破損などで判読できなくなったときは、PDF ファイルを下記のホームページからダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします（別売のGPSユニットは取り外してください）。なお、ホワイトバランスプリセットマニュアルの画像（🕮87）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

目 次

レリーズモード 59

画質モードと画像サイズ 64

フォーカス 68

ISO 感度 74

測光・露出 78

ホワイトバランス 82

画像処理 92

フラッシュ撮影 105

撮影の便利な機能 113

画像の再生 124

パソコン、プリンター、テレビとの接続 142

メニューガイド 158

資料 213

お使いになる前に

ニコンデジタルカメラ COOLPIX Aをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

📖 使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは📖11をご覧ください。

✓ アクセサリーについてのご注意

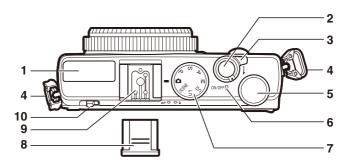
このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください（🕮xi）。

✓ カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- より安心してご愛用いただけるよう、別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

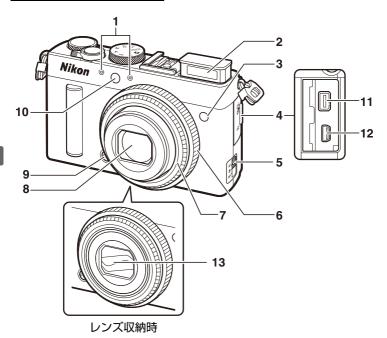
各部の名称と機能

カメラ本体

1	内蔵フラッシュ 105	6	電源ランプ 25
2	シャッターボタン 静止画撮影 ....26 動画撮影 35	7	撮影モードダイヤル........................ 8
3	電源スイッチ........................3	8	アクセサリーシューカバー BS-1........................ 213
4	ストラップ取り付け部 （吊り金具）........................iv	9	フラッシュ取り付け部 （アクセサリーシュー）...........213
5	コマンドダイヤル........................9	10	フラッシュポップアップ レバー 105

電源スイッチ

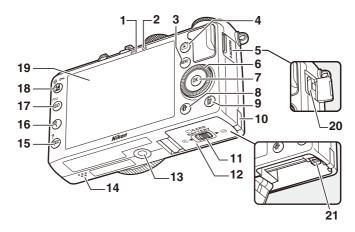
- 電源スイッチを回してカメラの電源をONにします。
- もう一度電源スイッチを回すと、電源がOFFになります。
- 再生モードで電源をONにするには、▶（再生）ボタン（□5）を長押しします。レンズを繰り出さずに電源をONにできます。

カメラ本体（つづき）

レンズ収納時

1	マイク（ステレオ）............................4	7	レンズリング
2	内蔵フラッシュ 105	8	レンズ
3	リモコン受光部 （別売リモコン ML-L3用）..........62	9	Fn1ボタン Fn1... 179
4	アクセサリーターミナル/ USB端子カバー....................... 218	10	AF補助光/ セルフタイマーランプ ... 62、167
5	フォーカスモード セレクター .... 68、73	11	アクセサリーターミナル.............218
6	フォーカスリング 73	12	USB端子 .... 144、147
		13	レンズバリアー

マイク、スピーカーについてのご注意

マイクやスピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。マイクやスピーカーに磁気製品を近づけないでください。

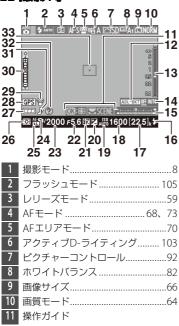
カメラ本体（つづき）

No.	名称	ページ
1	AFランプ/SDカードアクセスランプ	21、27
2	フラッシュランプ	105
3	MENUボタン メニュー	11、158
4	▶ボタン 再生	30、124
5	HDMI端子カバー	156
6	ロータリーマルチセレクター（マルチセレクター）※	12
7	ⓞⓚボタン	12
8	i ボタン	7
9	🗑ボタン 削除	31、138
10	パワーコネクターカバー	217
11	バッテリー/SDカードカバー開閉ノブ	20
12	バッテリー/SDカードカバー	20

No.	名称	ページ
13	三脚ネジ穴	
14	スピーカー	4
15	縮小（?）ボタン サムネイル 縮小表示 ヘルプ	 132 135 11
16	拡大ボタン 拡大表示	 135
17	ISO（Fn2）ボタン ISO Fn2	 10 180
18	露出補正（絞り/O-n）ボタン 露出補正 絞り変更 プロテクト	 80 10 137
19	液晶モニター	6
20	HDMIミニ端子（Type C）	155
21	バッテリーロックレバー	20

※ 本書では「ロータリーマルチセレクター」を「マルチセレクター」と表記することがあります。

液晶モニター表示

撮影、再生画面に表示される情報は、カメラの設定や状態によって異なります。

撮影時

1	撮影モード	8
2	フラッシュモード	105
3	レリーズモード	59
4	AFモード	68、73
5	AFエリアモード	70
6	アクティブD-ライティング	103
7	ピクチャーコントロール	92
8	ホワイトバランス	82
9	画像サイズ	66
10	画質モード	64
11	操作ガイド	
12	オートブラケティング	115
13	距離ゲージ	73
14	ADL-BKT撮影状態表示	117
15	露出インジケーター	53
16	フラッシュレディーマーク	
17	記録可能コマ数	24
18	ISO感度	74
19	感度自動制御	76
20	露出補正	80
21	調光補正	109
22	絞り値	51、52
23	シャッタースピード	50、52
24	AEロックマーク	
25	FVロックマーク	111
26	測光モード	78
27	電池残量/ACアダプター	24
28	GPS通信マーク	122
29	Eye-Fi通信マーク	181
30	液晶モニターの明るさ	180
31	電子音マーク	176
32	ヘルプ	11
33	AFエリア	27

再生時

1	プロテクト設定の有無	137
2	画像編集の有無	183
3	コマ番号/フォルダー内全画像数	
4	画質モード	64
5	画像サイズ	66
6	ファイル名	177
7	撮影時刻	23、172
8	撮影日付	23、172
9	フォルダー名	163

インフォ設定画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

ⓘボタンを押すと、インフォ設定画面が表示され、撮影時の設定を変更できます。マルチセレクターの上下左右（□12）を押してカーソルを動かし、項目を選んでⓀボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

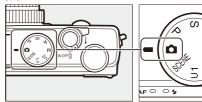
1	画質モード	64
2	画像サイズ	66
3	ホワイトバランス	82
4	ISO感度	74
5	レリーズモード	59
6	AFモード	68
7	AFエリアモード	70
8	測光モード	78
9	アクティブD-ライティング	104
10	オートブラケティング	117
11	ピクチャーコントロール	92
12	露出補正	80
	露出補正値	80
13	フラッシュ調光補正	109
	調光補正量	109
14	フラッシュモード	105
15	ヘルプあり表示	11
16	シャッタースピード	50、52
17	絞り値	51、52
18	インジケーター	
	露出	53
	露出補正	80
	AEブラケティング	116
	WBブラケティング	116
19	1000コマ以上補助表示	24
20	記録可能コマ数	24
21	マニュアル発光設定マーク	168
	スピードライト調光補正マーク	215
22	カメラのバッテリー残量表示	24
23	電子音マーク	176
24	Eye-Fi通信マーク	181
25	GPS通信マーク	123
26	ISO-AUTOマーク	74
27	FVロックマーク	111
28	オートブラケティングマーク	115
	ADL-BKT撮影状態表示	117

撮影画面に戻るには

インフォ設定画面の表示中に、ⓘボタンをもう一度押します。

撮影モードダイヤル

撮影モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

撮影モードダイヤル

オートモード（🕮26）

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで簡単に撮影することができます。

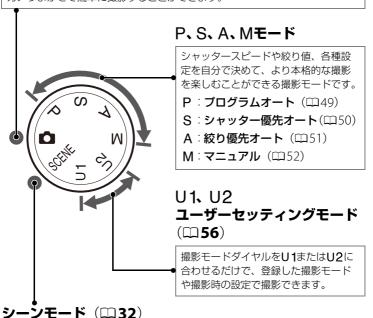
P、S、A、Mモード

シャッタースピードや絞り値、各種設定を自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができる撮影モードです。

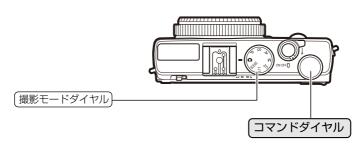
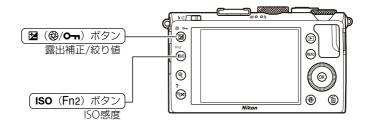
P：**プログラムオート**（🕮49）
S：**シャッター優先オート**（🕮50）
A：**絞り優先オート**（🕮51）
M：**マニュアル**（🕮52）

U1、U2 ユーザーセッティングモード（🕮56）

撮影モードダイヤルをU1またはU2に合わせるだけで、登録した撮影モードや撮影時の設定で撮影できます。

シーンモード（🕮32）

撮影シーンに合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、撮影シーンが決まっているときにおすすめの撮影モードです。

コマンドダイヤル

コマンドダイヤルを回すか、あるいは以下のボタンを押しながら回すと、設定を変更できます。

プログラムシフト
（撮影モードがPのとき：
49）

撮影モードP

コマンドダイヤル

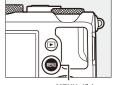
シャッタースピードの設定
（撮影モードがSまたはMのとき：50、52）

撮影モードSまたはM

コマンドダイヤル

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

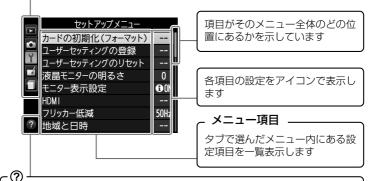
MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

▶	**再生メニュー（□158）**		**画像編集メニュー（□183）**
	撮影メニュー（□162）		**最近設定した項目（□209）／マイメニュー（□210）**※
	セットアップメニュー（□169）		

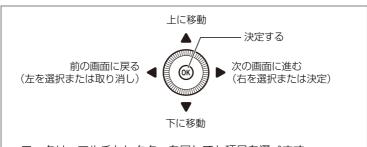
※ どちらかに設定できます。初期設定は［**最近設定した項目**］です。

?

ヘルプがある場合に表示します

このアイコンを表示しているときに（**?**）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します

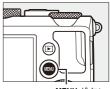
- 説明が2ページ以上ある場合は、（**?**）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- （**?**）ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

メニュー項目の設定

メニューの操作には、ロータリーマルチセレクター（マルチセレクター）と㊋ボタンを使います。

- ロータリーマルチセレクターを回しても項目を選べます。

▌メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

- MENUボタンを押します。

MENUボタン

2 メニューのタブを選ぶ

- ◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

3 メニューを切り換える

- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。

4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。

5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。
- ロータリーマルチセレクターを回しても項目を選べます。

6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。

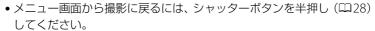
7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

- Ⓚボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENUボタンを押してください。

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- Ⓚ ボタンの代わりに ▶ を押しても決定できますが、画像の削除や SD カードの初期化などの重要な設定項目については、Ⓚボタンしか使えないことがあります。

- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□28）してください。

メニュー一覧

▶ 再生メニュー（□158）

項目	設定
削除	選択画像削除
	日付選択
	全画像削除
再生フォルダー設定	記録中のフォルダー（初期設定）
	全てのフォルダー
再生画面設定	画像のみ
	ハイライト
	RGBヒストグラム
	撮影情報
	統合表示
撮影直後の画像確認	する（初期設定）
	しない
縦位置自動回転	する（初期設定）
	しない
スライドショー	開始
	インターバル設定
プリント指定（DPOF）	設定
	一括解除

撮影メニュー（□162）

項目	設定
撮影メニューのリセット	する
	しない
記録フォルダー設定	記録フォルダー選択
	新規作成
	フォルダー名変更
	空フォルダー削除
画質モード	RAW＋FINE
	RAW＋NORMAL
	RAW＋BASIC
	RAW
	FINE
	NORMAL（初期設定）
	BASIC
画像サイズ	サイズL（初期設定）
	サイズM
	サイズS
ホワイトバランス	オート（初期設定）
	電球
	蛍光灯
	晴天
	フラッシュ
	曇天
	晴天日陰
	プリセットマニュアル
ピクチャーコントロール	スタンダード（初期設定）
	ニュートラル
	ビビッド
	モノクローム
	ポートレート
	風景
カスタムピクチャーコントロール	編集と登録
	登録名変更※1
	削除※1
	メモリーカードを使用
色空間	sRGB（初期設定）
	Adobe RGB
アクティブD-ライティング※2	オート
	より強め
	強め
	標準
	弱め
	しない
長秒時ノイズ低減	する
	しない（初期設定）
高感度ノイズ低減	強め
	標準（初期設定）
	弱め
	しない
ISO感度設定	ISO感度
	感度自動制御

レリーズモード	1コマ撮影（初期設定）
	連続撮影
	セルフタイマー
	2秒リモコン（ML-L3）
	瞬時リモコン（ML-L3）
	動画撮影
内蔵AF補助光の照射設定	する（初期設定）
	しない
フラッシュ使用時の露出補正	全体を補正（初期設定）
	背景のみ補正
内蔵フラッシュ発光	TTLモード（初期設定）
	マニュアル発光モード
外付けフラッシュ発光	TTLモード（初期設定）
	マニュアル発光モード
オートブラケティングのセット	AEブラケティング（初期設定）
	WBブラケティング
	ADLブラケティング
インターバルタイマー撮影	開始トリガー
	即時スタート
	開始時刻設定
	撮影間隔
	撮影回数
	撮影動作
動画の設定	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	録音設定

※1 カスタムピクチャーコントロールが未登録の場合は選べません。
※2 撮影モードP、S、A、M、⛰、▦、■の初期設定は［**しない**］、その他の撮影モードの初期設定は［**オート**］です。

セットアップメニュー（🕮169）

カードの初期化（フォーマット）	–
ユーザーセッティングの登録	U1に登録
	U2に登録
ユーザーセッティングのリセット	U1をリセット
	U2をリセット
液晶モニターの明るさ	–5～＋3
モニター表示設定	情報表示あり（初期設定）
	情報表示なし
	格子線
	水準器
HDMI	出力解像度
	機器制御
フリッカー低減	50 Hz
	60 Hz
地域と日時	現在地の設定
	日時の設定
	日付の表示順
	夏時間の設定
言語（Language）	English
	日本語
画像コメント	コメント入力
	コメント添付
縦横位置情報の記録	する（初期設定）
	しない
セルフタイマー	時間
	撮影コマ数
オートパワーオフ時間	20 秒
	1 分（初期設定）
	5 分
	30 分
撮影直後の画像確認時間	1 秒（初期設定）
	4 秒
	8 秒
	20 秒
	1 分

リモコン待機時間（ML-L3）	1 分（初期設定）
	5 分
	10 分
	15 分
電子音設定	高音
	低音
	電子音なし（初期設定）
シャッター音設定	あり（初期設定）
	なし
連番モード	する
	しない（初期設定）
	リセット
MFゲージ単位設定	m（初期設定）
	ft
インジケーターの＋/－方向	+ 0 −
	− 0 +（初期設定）
Fn1ボタンの機能	フラッシュモード設定（初期設定）
	レリーズモード設定
	セルフタイマー設定
	FV-L
	AE-L/AF-L
	AE-L
	AE-L（ホールド）
	AF-L
	AF-ON
	露出補正
	プラスRAW記録
ISO/Fn2ボタンの機能	ISO感度設定（初期設定）
	ホワイトバランス設定
	画質モード/画像サイズ設定
	測光モード設定
	アクティブD-ライティング設定
	オートブラケティング
	液晶モニターの明るさ
ダイヤル回転方向の変更	露出補正の設定時
	シャッタースピード/絞り値の設定時

カードなし時レリーズ	レリーズ禁止（初期設定）
	レリーズ許可
GPS	オートパワーオフ
	情報表示
	GPSによる日時合わせ
Eye-Fi送信機能※	有効（初期設定）
	無効
ファームウェアバージョン	−

※この機能に対応した Eye-Fi カードを挿入したときのみ表示されます。

画像編集メニュー（□183）

D-ライティング	−
赤目補正	−
トリミング	−
モノトーン	白黒
	セピア
	クール
フィルター効果	スカイライト
	ウォームトーン
	赤強調
	緑強調
	青強調
	クロススクリーン
	ソフト
カラーカスタマイズ	−
画像合成	−
RAW現像	−
リサイズ	画像選択
	画像サイズの設定
簡単レタッチ	−
傾き補正	−
魚眼効果	−
塗り絵	−
カラースケッチ	−
アオリ効果	−
ミニチュア効果	−
セレクトカラー	−

動画編集	始点/終点の設定
	選択フレームの保存
編集前後の画像表示※	–

※1 コマ表示モードから ㊍ ボタンを押して画像編集メニューを表示した場合のみ、選べます。

最近設定した項目（□209）

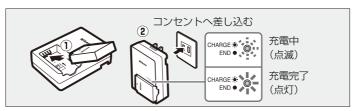
このタブの機能変更	マイメニュー
	最近設定した項目

マイメニュー（□210）

マイメニュー登録	再生メニュー
	撮影メニュー
	セットアップメニュー
	画像編集メニュー
登録項目の削除※	–
登録項目の順序変更	–
このタブの機能変更	マイメニュー
	最近設定した項目

※［マイメニュー］画面でメニューを選択し、ボタンを2回押しても登録したメニューを削除できます。

バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20は、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-27（以下「チャージャー」と表記）で次のようにフル充電してください。充電には約2時間かかります（残量のないバッテリーの場合）。

充電が完了したら、チャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り外します。

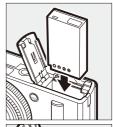
バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

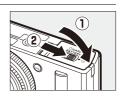
- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（🕮vi～x）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（🕮221～223）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーチャージャー MH-27に対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-27で充電しないでください。
- チャージャーの「CHARGE」ランプが速く点滅する場合は、バッテリーの異常です。ただちにチャージャーをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。
- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。

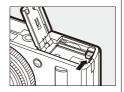
カメラにバッテリーを入れる

1 **バッテリー /SDカードカバー開閉ノブを矢印の方向に押して（①）、カメラ底面のバッテリー /SDカードカバーを開ける（②）**

2 **充電したバッテリーを入れる**

- 右図のように、正しい向きで入れてください。

- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かり、バッテリーがロックされます。

3 **バッテリー /SDカードカバーを閉じる**

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにしてから、バッテリー /SDカードカバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。

バッテリーを出し入れするときは

バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

SDカードを入れる

SDカードは、カメラの電源をOFFにしてから、下図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。

- 向きを間違えて挿入すると、カメラおよびSDカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入しているか、必ずご確認ください。
- カメラに SD カードが挿入されていると、電源を ON にしたときに SD カードアクセスランプ（□5）が一瞬点灯します。

SDカードのフォーマット

このカメラに初めて入れるSDカードや、他の機器でフォーマットされたSDカードは、セットアップメニュー［**カードの初期化（フォーマット）**］で、画面の指示に従ってフォーマットしてください。SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください。

SDカードを取り出すときは

バッテリー/SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。バッテリー/SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

SDカードを出し入れするときは

SDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はSDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
  - SDカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

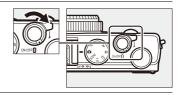
SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」した SD カードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。

書き込み禁止スイッチ

日付と時刻を設定する

ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。

1 カメラの電源をONにする

2 日付と時刻を合わせる

- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせます。
- ロータリーマルチセレクターを回しても数値を変更できます。
- ▶を押して、次の項目に移動します。◀を押すと元の項目に戻ります。

3 設定を完了する

- Ⓚボタンを押して日付と時刻の設定を完了します。
- 設定が完了すると、レンズが繰り出し、撮影画面が表示されます。

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクター EP-5CとACアダプター EH-5bを接続すると（□217）、時計用電池が充電されます。フル充電するには約1日かかります。充電すると、約2週間の間時計を動かすことができます。液晶モニターに「時計がリセットされました」と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。セットアップメニューの［**地域と日時**］（□172）でもう一度日時設定してください。

カメラ内蔵の時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定してください。

かんたんな撮影と再生

バッテリーとSDカードの残量を確認する

撮影を始める前に、カメラの電源をONにしてバッテリーの残量とSDカードの記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認してください。

■ バッテリー残量

液晶モニター	意味
	残量は充分に残っています。
	残量が減り始めました。
	残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
撮影できません。 バッテリーを交換してください。	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

■ 記録可能コマ数

- 液晶モニターで記録可能コマ数を確認します。
- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは「k」マークが点灯します。「k」は1000を意味しており、たとえば1630コマ撮影できるときは、「1.6 k」と表示されます。
- メモリーカードの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除するか、別のSDカードに交換してください。

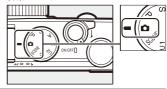
節電機能について（オートパワーオフ）

カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。

- 待機中に液晶モニターを再点灯するには、以下のいずれかの操作をします。
  - シャッターボタンまたは▶ボタンを押す
  - 電源スイッチまたはモードダイヤルを回す
- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（□175）の［**オートパワーオフ時間**］で変更できます。
- 初期設定では、撮影時または再生時は、約1分で待機状態になります。

📷（オート）で撮影する
―カメラまかせの簡単撮影

撮影モード📷は、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しむことができます。

1 **カメラ上面の撮影モードダイヤルを📷に合わせる**

2 **カメラを両手でしっかりと構える**

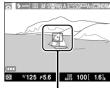
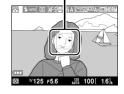
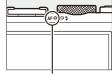
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。
- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

- 内蔵フラッシュを使って縦位置で撮影するときは、内蔵フラッシュの位置をレンズよりも上にしてください。
- 暗いときは手ブレしやすいのでフラッシュ（🕮105）や三脚などの使用をおすすめします。

3 構図を決める

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

AFエリア

- シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、AFエリアは緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。
  また、AFランプ/SDカードアクセスランプはピントが合うと点灯し、ピントが合わないときは点滅します。
- 人物の顔を認識すると、顔にピントを合わせます。顔を認識しないときはAFエリア内でピントを合わせます。半押しする前に、マルチセレクターの▲▼◀▶を押すと、AFエリアの位置を移動できます。
- ピントが合うと、シャッターボタンを半押ししている間、ピントを固定します。
- 暗い場所では、AF補助光（🕮167）が光ることがあります。

AFランプ/SDカードアクセスランプ

5 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影する

- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- AFランプ/SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**
- 撮影した画像が液晶モニターに約1秒表示されます。

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

半押しして
ピントを合わせる

全押しして
撮影する

オートフォーカスの苦手な被写体について

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAFランプ/SDカードアクセスランプが緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック撮影をお試しください（□72）。マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます（□73）。

撮影時のご注意

- 液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの［**フリッカー低減**］（□171）で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 長時間撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。

カメラが熱くなったときは

- カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために警告メッセージが表示され、カメラの電源がOFFになります。警告メッセージが表示され、撮影を開始できない場合は、電源をOFFにしたままカメラ内部の温度が下がるまで撮影を一時休止してください。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - 静止画、動画撮影を長時間行った場合
  - 連写（連続撮影）を行った直後など

撮影した画像を確認する

1 ▶ボタンを押す

• 撮影した画像を液晶モニターに表示します。

▶ボタン

2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

• ロータリーマルチセレクターまたはコマンドダイヤルを回しても、表示する画像を切り換えられます。

• 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

画像を削除する

表示中の画像を削除します。**削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。**

1 削除したい画像を表示する

- ▶ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選びます。

▶ボタン

2 画像を削除する

- 🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

🗑ボタン

再生メニュー［削除］

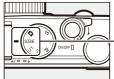
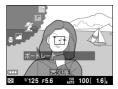
再生メニューの［**削除**］（□139）では、次の操作ができます。

- 複数の画像を選択して削除
- 同じ日付の画像をまとめて削除
- 再生フォルダー内の全画像を一括して削除

シーンに合わせて撮影する
―簡単操作でより美しく

撮影シーンを選ぶと、そのシーンに適した設定で撮影できます。

▌シーンモードの設定方法

シーンモードは、撮影モードダイヤルをSCENEに合わせて、コマンドダイヤルで選択します。選択されているシーンモードは、液晶モニターにアイコンで表示されます。

撮影モードダイヤル

コマンドダイヤル

液晶モニター

（ポートレート）

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌を滑らかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

（風景）

自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

（こどもスナップ）

肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

（スポーツ）

動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

- シャッターボタンを全押しし続けると、約4コマ/秒の速さで最大約26コマまで連写できます（画質モードが［**NORMAL**］、画像サイズが［**サイズ L**］のとき）。

（クローズアップ）

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

（夜景ポートレート）

夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

（夜景）

ノイズや不自然な発色を抑え、外灯やネオンなどの光を鮮やかにして夜景の雰囲気を表現します。

（パーティー）

パーティー会場の光の雰囲気も表現します。

（海・雪）

晴天の海や湖、砂浜、雪景色などの撮影に適しています。

（夕焼け）

夕焼けや朝焼けの撮影に適しています。

（トワイライト）

夜明け前や日没後の風景の撮影に適しています。わずかな自然光での風景をきれいに表現します。

（ペット）

動き回るペットなどの撮影に適しています。

（キャンドルライト）

ろうそくのほのかな明かりを表現します。被写体の背景を活かした雰囲気のある画像に仕上げます。

（桜）

桜、花畑などの花がたくさん咲いている風景の撮影に適しています。

（紅葉）

紅葉の赤色や黄色を鮮やかに表現します。

（料理）

料理を鮮やかに表現します。

（シルエット）

背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。

（ハイキー）

全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やいだ雰囲気になります。

（ローキー）

全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着き、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。

動画の撮影と再生

動画を撮影する

音声付きの動画を撮影できます。

1 ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ボタン

インフォ設定画面

2 ［レリーズモード］を選ぶ

- ［レリーズモード］を選んでボタンを押します。

3 ［］（動画撮影）を選ぶ

- ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

4 撮影モードを選ぶ

- シャッタースピードを変更したいときは、撮影モードをMにして、撮影前にシャッタースピードを設定してください。1/8000～1/30秒の範囲で設定できます。撮影中はシャッタースピードを変更できません。また、撮影モードをSにしても、シャッタースピードは変更できません。
- 撮影モードA、Mのときは、撮影前に絞り値を設定してください。撮影中は絞り値を変更できません。
- プログラムシフト（□49）は設定できません。

5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、「📷（オート）で撮影する」の手順3と4（📖27）と同じ手順で被写体にピントを合わせます。

6 シャッターボタンを全押しして、撮影を始める

シャッターボタン

- 撮影モードP、S、Aの場合、☒（⊛/О╤）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、1/3段ステップで±2段の範囲で露出補正ができます（📖80）。
- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。

録画中マーク

残り時間

7 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

AFモードおよびAFエリアモードについて

AFモードおよびAFエリアモードの設定方法については、「AFモードを変更する」（📖69）、「AFエリアモードを変更する」（📖70）をご覧ください。

常時AFサーボ（AF-F）について

AFモードを［**AF-F**］にすると、被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。

動画撮影中のAF-ONについて

セットアップメニューの［**Fn1 ボタンの機能**］（□179）を［**AF-ON**］にしているときは、Fn1ボタンを押すとオートフォーカスが作動します。

動画撮影中のAFロック/AEロックについて

- 動画撮影中にフォーカスロックを行うには、セットアップメニューの［**Fn1 ボタンの機能**］（□179）を［**AF-L**］または［**AE-L/AF-L**］に変更してください。
- 動画撮影中にAEロックを行うには、セットアップメニューの［**Fn1 ボタンの機能**］（□179）を［**AE-L**］または［**AE-L/AF-L**］に変更してください。

動画撮影時のISO感度について

- 撮影モードがMのときは、ISO感度（□74）を100～6400の範囲で設定できます。
- 撮影モードがM以外のときは、ISO感度は自動的に100～6400の範囲で設定されます。

動画撮影中のマニュアルフォーカスについて

動画撮影中はマニュアルフォーカス（□73）はできません。ピントは撮影開始前に合わせてください。

動画撮影時の情報表示

① **動画記録禁止マーク**	動画が撮影できない状態のとき表示します。	—
② **動画の画像サイズ**	動画の画像サイズを表示します。	🕮39
③ **動画記録残り時間**	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します。	🕮34

動画撮影について

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、連続撮影可能時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります（🕮244）。
- １つの動画ファイルで記録可能な連続撮影可能時間は、最長20分または29分59秒です（🕮39）。
- 動画撮影を開始する前に［**色空間**］（🕮165）を設定すると、設定した内容で動画撮影できます。

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
  - 連続撮影可能時間に達した場合
  - SDカードの残量がなくなった場合
  - 撮影モードを切り換えた場合
- 長時間撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、カメラは自動的に動画撮影を終了することがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - 動画撮影を長時間行った場合
  - 連写（連続撮影）を行った直後など

  カメラが熱くなって動画撮影を開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまで動画撮影を一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- マイク（□4）を指などでふさがないようにしてください。音声が記録できない場合があります。
- オートフォーカス作動中は、レンズの動作音が録音されることがあります。

関連ページ

- 動画の画像サイズや画質を撮影メニューで設定する → 📷［**動画の設定**］（□39）
- 動画撮影時のフリッカー現象を低減する → 🔧［**フリッカー低減**］（□171）

動画の設定

撮影メニューの［**動画の設定**］では、動画を記録するときの［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画の画質**］、［**録音設定**］を設定できます。

■ 画像サイズ/フレームレート、動画の画質

［**画像サイズ/フレームレート**］では、動画を記録するときの解像度（ピクセル）/フレームレートを設定します。［**動画の画質**］では、動画の画質を高画質と標準から選べます。

	画像サイズ/フレームレート		動画の画質	連続撮影可能時間（★高画質/標準）※3
	解像度（ピクセル）	フレームレート※1	最大ビットレート（★高画質※2/標準）	
1080 P★30/1080 P30	1920×1080	30p	18 Mbps/10 Mbps	20分/29分59秒
1080 P★25/1080 P25	1920×1080	25p		
1080 P★24/1080 P24	1920×1080	24p		
720 P★30/720 P30	1280× 720	30p	10 Mbps/6 Mbps	29分59秒/29分59秒
720 P★25/720 P25	1280× 720	25p		
720 P★24/720 P24	1280× 720	24p	8 Mbps/5 Mbps	

※1 30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2［**動画の画質**］が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

※3 カメラが熱くなった場合、連続撮影可能時間内でも動画撮影が終了することがあります。

［画像サイズ/フレームレート］について

［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によっては、撮影した動画のノイズ（ざらつき、むら、輝点）の見え方が異なります。

録音設定

動画に音声を記録するかどうかを設定します。

録音する	音声を記録します。
録音しない	音声は記録しません。

動画の設定の変更方法

1 撮影メニューの［動画の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**動画の設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 動画の設定項目を選ぶ

- ［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画の画質**］、［**録音設定**］のうちいずれかを選んでマルチセレクターの▶を押すと、設定画面が表示されます。

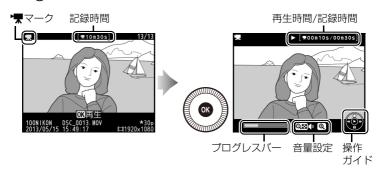
3 設定したい項目を選ぶ

- Ⓞボタンを押して設定します。

音声が記録されていない動画の表示について

撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に🔇（音声なしマーク）が表示されます。

動画の再生

1コマ表示モード（□124）で🎞マークが表示されている画像が動画です。Ⓞボタンを押すと動画を再生します。

■ 動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中にⓄボタンを押すと、動画再生を再開します。
巻き戻しする/早送りする		• 動画の再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り換わります。 • ◀ ボタンを押し続けると、最初のコマに移動し、▶ボタンを押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには ⏮ アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。

コマ戻しする/コマ送りする	◀ OK ▶	• 一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 • ◀または▶を押し続けると、連続でコマ戻し/コマ送りします。 • ロータリーマルチセレクターまたはコマンドダイヤルを回しても、コマ戻し/コマ送りできます。
音量を調節する	⊕/⊖（?）	⊕ボタンを押すと音量が大きくなり、⊖（?）ボタンを押すと小さくなります。
再生を終了する	▲ OK / ▶	▲または▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		撮影画面に戻ります。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□158）。

動画の編集

撮影した動画を編集できます。

始点/終点の設定	選択した範囲を残します。
選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す

1 編集したい動画を表示する

- ▶ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で編集したい動画を選びます。

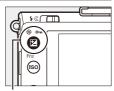
▶ボタン

2 編集したい部分で動画を一時停止する

- OKボタンを押すと、動画が再生されます。再生中に▼を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ◀または▶、コマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。

プログレスバー

3 ☒（⊛/O┳）ボタンを押す

- ☒（⊛/O┳）ボタンを押すと、[動画編集]画面が表示されます。

☒（⊛/O┳）ボタン

4 ［動画編集］画面で［始点/終点の設定］を選ぶ

- ［**始点/終点の設定**］を選んでⓄⓚボタンを押します。

5 始点または終点を選ぶ

- 右の画面で現在の位置を始点とするか終点とするかを選んでⓄⓚボタンを押すと、始点/終点の設定画面が表示されます。

6 始点または終点を調整する

- ◀または▶を押すか、コマンドダイヤルを回して、手順5で選んだ始点または終点の位置を調整します。
- ☒（⊛/O‒π）ボタンを押すと、▘（始点）または▝（終点）を切り換えられます。

7 ▲を押して始点と終点を決定する

8 動画ファイルを作成する

- ［**新規保存**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。
- ［**上書き保存**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、編集前の動画を上書きして動画を保存します。

- ［**キャンセル**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、手順6の画面に戻ります。
- ［**プレビュー**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、設定した始点から終点の範囲の動画が再生されます。
- 編集した動画には、1コマ表示時に⧉が表示されます。

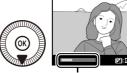
動画編集時のご注意

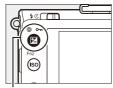
- SDカードに充分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- ［**始点/終点の設定**］では、2秒未満の動画は編集できません。手順6で始点と終点を決めるときに、動画ファイルを作成できない位置では、再生時間の表示が赤色に変わり、手順7に進めません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

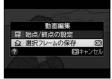
1 編集したいフレームで動画を一時停止する

プログレスバー

- OKボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで、再生中の位置の目安を確認できます。
- マルチセレクターの◀または▶でフレームを調整できます。

2 ⊠（⊛/O━）ボタンを押す

- ⊠（⊛/O━）ボタンを押すと、［動画編集］画面が表示されます。

⊠（⊛/O━）ボタン

3 ［動画編集］画面で［選択フレームの保存］を選ぶ

- ［**選択フレームの保存**］を選んで、OKボタンを押します。

4 ▲を押して、切り出すフレームを決定する

5 JPEG画像を作成する

- ［**はい**］を選んでⓀボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。
- 作成したJPEG画像には、1コマ表示時に▣が表示されます。

［選択フレームの保存］で作成した画像について

- 動画から作成したJPEG画像に対して、画像編集することはできません。
- 再生時の画像情報で表示されない項目があります。

P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影モードP、S、A、Mでは、撮影の意図に応じて、シャッタースピードや絞り値を自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

P	**プログラムオート（□49）**	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート（□50）**	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート（□51）**	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル（□52）**	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）（□54）もできます。

P（プログラムオート）

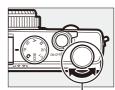
シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

PS
AM

プログラムシフト

撮影モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中はP*マークが表示されます。

コマンドダイヤル

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにする）場合にはコマンドダイヤルを反時計回りに回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きくする）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにする）場合にはコマンドダイヤルを時計回りに回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマークP*が消灯するまでコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

S（シャッター優先オート）

コマンドダイヤルで好みのシャッタースピードを設定する

コマンドダイヤル

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

速いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1/1600秒

遅いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1/6秒

A（絞り優先オート）

コマンドダイヤルで好みの絞り値を設定する

コマンドダイヤル

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込むことによって、手前から奥まで鮮明な写真を撮影したり、絞りを開くことによって、背景をぼかして草花や人物を浮かび上がらせて撮影するなど、被写界深度を優先した撮影に適しています。また、フラッシュ撮影時には、絞り値を変えることにより調光範囲の変更もできます。

絞りを開いたとき
絞り値：F5.6

絞りを絞り込んだとき
絞り値：F22

M（マニュアル）

露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

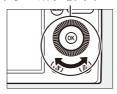
シャッタースピードの設定

コマンドダイヤル

ロータリーマルチセレクター

絞り値の設定

PS AM

絞り値

- 絞り値は、（/）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても変更できます。
- （/）ボタンを押しながらマルチセレクターを回すと、シャッタースピードを変更できます。

露出インジケーターについて

撮影モードがMのときの適正露出との差が、液晶モニターに表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです。

露出インジケーター	内容
−⋅⋅⋅⋅⋅⋅0⋅⋅⋅⋅⋅⋅+	適正露出
−⋅⋅⋅⋅⋅⋅0⋅⋅⋅⋅⋅⋅+ （1/3段アンダー）	インジケーターが−（マイナス）側に振れているときは画像が適正露出よりも暗いことを意味しています。
−⋅⋅⋅⋅⋅⋅0⋅⋅⋅⋅⋅⋅+ （2段以上オーバー）	インジケーターが＋（プラス）側に振れているときは画像が適正露出よりも明るいことを意味しています。

- 長時間露出時（🕮54）は、露出インジケーターは表示されません。
- 露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケーターの基準値が変わります（🕮81）。

露出の制御ができないときの警告について

被写体が明るすぎ、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。

関連ページ

インジケーターの＋/−方向を変更する → 🔧［**インジケーターの＋/−方向**］（🕮178）

■ 長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。

花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露出には、手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン ML-L3またはリモートコード MC-DC2の使用をおすすめします（🕮218）。

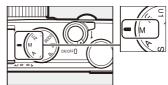
シャッタースピードを35秒にして撮影した場合の画像

PS AM

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。 • 別売のリモートコード MC-DC2のシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に機能します。
タイム撮影	別売のリモコン ML-L3が必要です。ML-L3の送信ボタンを一度押すとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

1 **三脚などを使ってカメラを固定する**

2 **撮影モードダイヤルをMに合わせる**

撮影モードダイヤル

3 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを**Bulb**に設定する

コマンドダイヤル

- タイム撮影の場合は、シャッタースピードを**Bulb**にしてからレリーズモード（□59）を［2s］（**2秒リモコン**）または［ ］（**瞬時リモコン**）にしてください。シャッタースピードの表示が**Time**に変わります。

4 ピントを合わせて、長時間露出を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

タイム撮影：

- ML-L3の送信ボタンを押すと、2秒後または瞬時にシャッターが開き、長時間露出を開始します。

5 長時間露出を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出を終了します。

タイム撮影：

- ML-L3の送信ボタンをもう一度押すと、長時間露出を終了します。ただし、シャッターは、開いてから約30分経つと自動的に閉じます。

PSAM

長時間露出について

- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（□166）を［**する**］にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー EN-EL20、または別売のパワーコネクター EP-5CとACアダプター EH-5bを組み合わせてお使いになることをおすすめします。

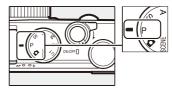
ユーザーセッティングモードU1、U2を使う

U1、U2にユーザーセッティングを登録する

よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤルU1とU2に登録すると、撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

ユーザーセッティングを登録する

1 登録したい撮影モードを選ぶ

撮影モードダイヤル

2 登録したい撮影機能を設定する

- ユーザーセッティングモードU1、U2には、次の撮影機能を登録できます。
  - 撮影メニュー項目（🕮162）（［**撮影メニューのリセット**］、［**記録フォルダー設定**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］、［**レリーズモード**］、［**インターバルタイマー撮影**］を除く）
  - 撮影モード（🕮48）、プログラムシフト（🕮49）、シャッタースピード（🕮50）、絞り値（🕮51）、AFモード（🕮69）、AFエリアモード（🕮70）、測光モード（🕮78）、露出補正（🕮80）、フラッシュモード（🕮105）、調光補正（🕮109）、オートブラケティング（🕮115）

3 セットアップメニューの［ユーザーセッティングの登録］を選ぶ

- **MENU**ボタンを押して、セットアップメニューの［**ユーザーセッティングの登録**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

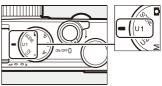
4 設定を登録したいユーザーセッティングモードを選ぶ

- ［**U1に登録**］または［**U2に登録**］のいずれかを選んで、▶を押します。

5 ユーザーセッティングを登録する

- ▲または▼で、［**はい**］を選んで㊊ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに現在の設定内容が登録されます。

6 登録したユーザーセッティングで撮影する

- 撮影モードダイヤルをU1またはU2に合わせると、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

登録したユーザーセッティングをリセットする

1 セットアップメニューの［ユーザーセッティングのリセット］を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**ユーザーセッティングのリセット**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 リセットしたいユーザーセッティングモードを選ぶ

- ［**U1をリセット**］または［**U2をリセット**］のいずれかを選んで、▶を押します。

3 ユーザーセッティングをリセットする

- ▲または▼で、［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに登録された設定内容が、初期設定に戻ります。撮影モードはPになります。

レリーズモード

1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー、リモコンモード、動画撮影モードで撮影する（レリーズモード）

シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

レリーズモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約4コマ/秒で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。
セルフタイマー	シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です（□62）。
2s 2秒リモコン（ML-L3）	別売のリモコン ML-L3（□218）の送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます（□62）。
瞬時リモコン（ML-L3）	別売のリモコン ML-L3（□218）の送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます（□62）。
動画撮影	シャッターボタンを全押しすると動画を撮影します（□34）。撮影を終了するときは、もう一度シャッターボタンを押します。

1 **ボタンを押してインフォ設定画面を表示する**

ボタン　インフォ設定画面

2 ［レリーズモード］を選ぶ

- ［**レリーズモード**］を選んで㊍ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいレリーズモードを選ぶ

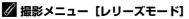
- ㊍ボタンを押して決定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが発光するときは、連続撮影はできません。連続撮影するには、内蔵フラッシュを収納するか、フラッシュモード（🕮105）を［⊕］（**発光禁止**）にしてください。
- 連続撮影が終了しても、SDカードの性能や撮影条件によっては、記録に時間がかかる場合があります。記録中はSDカードアクセスランプが点灯し続けます。
- 連続撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて電源がOFFになります。

連続撮影可能コマ数の表示

- シャッターボタンを半押しすると、**r**と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるコマ数）が、液晶モニターに表示されます。右図の場合、連続撮影速度を維持したままで、あと最低17コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影可能コマ数は画質モード［**NORMAL**］、画像サイズ［**サイズ L**］の場合は約26コマ、画質モード［**RAW+FINE**］、画像サイズ［**サイズ L**］の場合は約9コマです。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。SD カードの種類または撮影条件によって増減することがあります。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。

撮影メニュー［レリーズモード］

レリーズモードは、メニュー操作でも設定できます（□162）。

セルフタイマーやリモコンを使って撮影する

セルフタイマーや別売のリモコン ML-L3（□218）を使って、カメラから離れた場所から静止画を撮影できます。

1 **三脚などでカメラを固定する**

2 **レリーズモードを［⏱］（セルフタイマー）、［2s］（2秒リモコン（ML-L3））、［ ］（瞬時リモコン（ML-L3））のいずれかに設定する（□59）**

ボタン

インフォ設定画面

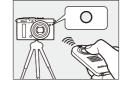
3 **構図を決めて撮影する**

セルフタイマー撮影の場合：

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、全押ししてください。タイマーが作動し、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点滅から点灯に変わります。

- シャッターボタンを全押ししてから約10秒後にシャッターがきれます。

リモコン撮影（ML-L3）の場合：

- 5 m以内の距離から、リモコン送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください。リモコン受光部は、カメラ前面にあります（□4）。
- リモコンの送信ボタンを押すとオートフォーカスでピントを合わせます。

- 手順2でリモコンモードを選んでから、リモコン撮影をしないまま約1分間の受信待機時間が経過すると、カメラの電源がOFFになります。
- 2秒リモコンモードではセルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- 瞬時リモコンモードではすぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。

リモコン ML-L3を初めてお使いになるときのご注意

リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

レリーズモードについてのご注意

レリーズモードを［2s］（**2秒リモコン（ML-L3）**）、［］（**瞬時リモコン（ML-L3）**）にすると、別売のリモコン ML-L3以外ではシャッターをきれません。

リモコン撮影時のご注意

カメラ本体が逆光になるような環境の場合は、5 m以内でもリモコンML-L3が使えないことがあります。

セルフタイマー、リモコン撮影時のフラッシュについて

- 撮影を開始する前にフラッシュポップアップレバーをスライドさせて内蔵フラッシュを上げておくと、内蔵フラッシュを使った撮影ができます。セルフタイマーの作動中や2秒リモコンモードでリモコンの送信ボタンを押した後にフラッシュを上げても、フラッシュは発光しません。
- リモコンML-L3の受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にリモコンの送信ボタンを押すと発光します。フラッシュの充電中にリモコンの送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。
- 赤目軽減発光（□106）を組み合わせたフラッシュモードでリモコン撮影する場合、フラッシュが本発光する前に数回点灯するため、シャッターがきれるまでに通常よりも約1秒のタイムラグが発生します。
- 内蔵フラッシュが発光するときは、セットアップメニュー［**セルフタイマー**］の［**撮影コマ数**］（□175）を2コマ以上に設定していても、連続撮影はできません。

セルフタイマー、リモコン撮影の解除について

作動中のタイマーまたはリモコンの待機状態を解除するには、電源をOFFにしてください。電源をOFFにすると、レリーズモードは直前のレリーズモードに戻ります。

関連ページ

- セルフタイマーの作動時間や連続撮影コマ数を変更する → ［**セルフタイマー**］（□175）
- リモコンML-L3の受信待機時間を変更する → ［**リモコン待機時間（ML-L3）**］（□176）

画質モードと画像サイズ

画質モードを変更する

画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード		ファイル形式	内容
RAW＋FINE		NEF＋JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW＋NORMAL			RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW＋BASIC			RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW		NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	高↑	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します。
NORMAL	画質		画像データを約1/8に圧縮して記録します。
BASIC	↓低		画像データを約1/16に圧縮して記録します。

■ 画質モードの設定方法

1 **ボタンを押してインフォ設定画面を表示する**

ボタン

インフォ設定画面

2 ［画質モード］を選ぶ

- ［**画質モード**］を選んでⓄボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい画質モードを選ぶ

- Ⓞボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

「RAW」についてのご注意

- RAW画像の現像をするには、画像編集メニューの［**RAW現像**］（□195）、または付属のソフトウェア ViewNX 2 や別売の Capture NX 2（□218）を使います。ViewNX 2は付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってインストールできます。
- 画質モードをRAWに設定すると［**画像サイズ**］（□66）は変更できません。
- RAWを含む画質モードに設定すると、WBブラケティング（□115）は使用できません。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- カメラでの再生時には、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像をカメラ上で削除すると、同時記録されたRAW画像も削除されます。

撮影メニュー［画質モード］

画質モードは、メニュー操作でも設定できます（□162）。

関連ページ

- **ISO**（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、画質モードと画像サイズの組み合わせを切り換えられるようにする → ［**ISO/Fn2ボタンの機能**］（□180）
- 「記録可能コマ数」（□245）
- ［**Fn1ボタンの機能**］→［**プラスRAW記録**］（□179）

画像サイズを変更する

画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を、［**サイズ L**］、［**サイズ M**］、［**サイズ S**］から設定できます。

画像サイズ	プリント時の大きさ（出力解像度300dpiの場合）※
L　**サイズ L**　（4928×3264ピクセル）	約41.7×27.6 cm
M　**サイズ M**　（3696×2448ピクセル）	約31.3×20.7 cm
S　**サイズ S**　（2464×1632ピクセル）	約20.9×13.8 cm

※ ピクセル数÷出力解像度（dpi）× 2.54 cmで計算しています。

画像サイズの設定方法

1 i ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

i ボタン

インフォ設定画面

2 ［画像サイズ］を選ぶ

- ［**画像サイズ**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい画像サイズを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

撮影メニュー［画像サイズ］

画像サイズは、メニュー操作でも設定できます（0162）。

関連ページ

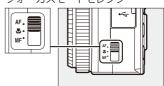
- ISO（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、画質モードと画像サイズの組み合わせを切り換えられるようにする → Y［ISO/Fn2ボタンの機能］（0180）
- 「記録可能コマ数」（0245）

フォーカス

ピントを自動で合わせて撮影する（オートフォーカス）

フォーカスモードセレクターを**AF**（通常AF）または🌷（マクロAF）に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセレクター

- シーンモードの 🌷 または 🍴 では、フォーカスモードセレクターを**AF**（通常AF）にしたままでも、マクロAFの設定になります。

通常AFとマクロAF

通常AFは、レンズ前から50 cm以上離れた被写体を撮影できます。マクロAFは、花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。レンズ前約10 cmまでの被写体にピント合わせができます。

マニュアル優先オートフォーカスについて

- オートフォーカス撮影時、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカス撮影が行えます（🕮73）。
- シャッターボタンを再度半押しすると、オートフォーカス撮影が可能となります。

AFモードを変更する

オートフォーカスでのピントの合わせ方を選びます。

AF-S シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

1 ⓘボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ⓘボタン

インフォ設定画面

2 [AFモード] を選ぶ

- [**AFモード**] を選んでⓀボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいAFモードを選ぶ

- Ⓚボタンを押して決定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

AFエリアモードを変更する

オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。撮影モードのときは選べません。

顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。
ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。AFエリアは任意の位置に移動できます。
ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピントを合わせたい場合に適しています。
ターゲット追尾AF	動く被写体に合わせてAFエリアを動かしたい場合に適しています。

1 **ボタンを押してインフォ設定画面を表示する**

ボタン

インフォ設定画面

2 **［AFエリアモード］を選ぶ**

- ［**AFエリアモード**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 **設定したいAFエリアモードを選ぶ**

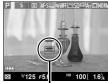
- OKボタンを押して決定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

- ［**AFエリアモード**］が［**顔認識AF**］（□70）の場合は、カメラが人物の顔を自動的に認識し、AFエリアが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターの▲▼◀▶を押して二重枠を移動して、他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。顔を認識しないときは［**ノーマルエリアAF**］と同様に動作します。

AFエリア

- ［**ワイドエリアAF**］または［**ノーマルエリアAF**］（□70）の場合は、▲▼◀▶を押してAFエリアをピントを合わせる被写体の位置に移動させます。®ボタンを押すと、AFエリアは中央に移動します。

AFエリア

- ［**ターゲット追尾AF**］（□70）の場合は、AFエリアを被写体に重ねて®ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてAFエリアが移動します。もう一度®ボタンを押すと、追尾を終了します。

AFエリア

ターゲット追尾AFについてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

被写体にピントを合わせてから、構図を変えて撮影できます。オートフォーカスが苦手な被写体（□28）などを撮影する場合に効果的です。

1 **ピントを合わせたい被写体にカメラを向けて、シャッターボタンを半押しする**

- ピントが合うと、AFエリアが緑色で表示されます。

2 **ピントを固定する**

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。

3 **フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する**

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

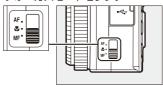
Fn1ボタンでフォーカスロックを行う

［**Fn1ボタンの機能**］（□179）の設定を［**AF-L**］にすると、Fn1ボタンを押してフォーカスロックできます。

ピントを手動で合わせて撮影する（マニュアルフォーカス）

フォーカスモードセレクターを**MF**にすると、ピントを手動（マニュアル）で合わせられます。ピントは、フォーカスリングを回してメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。🔍ボタンを押して画像を大きくすると、ピントを合わせやすくなります。拡大範囲はマルチセレクターの▲▼◀▶で移動できます。

- 画面右の距離ゲージに表示される数字はピントが合う距離（m）の目安です。距離ゲージの単位は、セットアップメニューの［**MFゲージ単位設定**］（□178）で変更できます。実際にピントが合う範囲は、絞り値によって異なります。ピントが合っているかどうかは、画面内の被写体で確認してください。
- フォーカスリングを速く回すと、高速でピント位置を変えられます。

フォーカスモードセレクター

距離ゲージ

ISO感度

ISO感度を設定する

一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。ISO感度はISO 100～6400の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 6400から約0.3段（ISO 8000相当）～約2段（ISO 25600相当）の範囲での増感ができます。

設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

撮影モード	ISO感度
、SCENE	オート、100～6400、Hi 0.3～Hi 2
P、S、A、M	100～6400、Hi 0.3～Hi 2

- ［**オート**］ではカメラが自動的にISO 100～3200の範囲でISO感度を決めます。

ISO感度の設定方法

1 ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ボタン

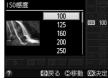
インフォ設定画面

2 ［ISO感度］を選ぶ

- ［**ISO感度**］を選んでボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

ISO

3 設定したいISO感度を選ぶ

- Ⓞボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度**］を［**オート**］にしてから撮影モードをP、S、A、Mのいずれかに切り換えた場合は、P、S、A、Mの撮影モードで最後に設定したISO感度になります。

ISO感度

ISO感度は、**ISO**（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても設定できます。

撮影メニュー［ISO感度設定］

ISO感度は、メニュー操作でも設定できます（□162）。

関連ページ

- 撮影モードP、S、A、MでISO感度を自動制御する → ［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］（□76）
- 高感度撮影時のノイズを低減する → ［**高感度ノイズ低減**］（□166）
- **ISO**（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、ISO感度を切り換えられるようにする → ［**ISO/Fn2ボタンの機能**］（□180）

感度自動制御機能を使う

撮影モードP、S、A、Mのみ

感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

▮▮［感度自動制御］の設定方法

1 撮影メニューの［ISO感度設定］で［感度自動制御］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

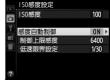
MENUボタン

2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

- ［**しない**］を選ぶと、［**ISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。

3 感度の制御方法を設定する

- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。

制御上限感度	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	撮影モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/1000～1秒）を設定できます。 • ISO 感度を上欄の［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- ㊍ボタンを押して設定します。

ISO

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。撮影メニューの［**高感度ノイズ低減**］を使うと、ノイズを低減できます（□166）。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト（□213）の装着時にフラッシュモード（□105）をスローシンクロ（スローシャッターでのフラッシュ撮影）に設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

測光・露出

明るさを測る方法を設定する（測光モード）

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

- P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適した測光モードが自動的に選ばれます。

マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。
スポット測光	AFエリアに重なる部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。

▮ 測光モードの設定方法

1 i ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

i ボタン

インフォ設定画面

2 ［測光モード］を選ぶ

- ［**測光モード**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい測光モードを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

関連ページ

ISO（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、測光モードを設定できるようにする
→ ［ISO/Fn2ボタンの機能］（□180）

画像の明るさを調整する（露出補正）

撮影モードP、S、Aのみ

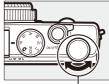
露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（□78）を中央部重点測光またはスポット測光にすると効果的です。

－1段補正

露出補正なし

＋1段補正

■ 露出補正の設定方法

1 （/）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回す

（/）ボタン

コマンドダイヤル

2 露出補正値を選ぶ

- 1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。
- 被写体を明るくしたいときは+（プラス）側に、暗くしたいときは−（マイナス）側に補正します。
- 露出補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

インフォ設定画面での設定方法

露出補正値は、インフォ設定画面から（□7）［**露出補正**］を選んで設定することもできます。

撮影モードMでの露出補正

- 露出補正値を0.0以外に設定して撮影モードを**M**に切り換えたときは、露出補正値が保持されます。
- 露出補正が設定されていても、手動で設定したシャッタースピードと絞り値で撮影されます。
- 露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケーターの基準値が変わります。

フラッシュ使用時の露出補正

フラッシュ使用時に露出補正を行ったときは、背景の露出とフラッシュ発光量の両方が補正され、画像全体の明るさが変わります。撮影メニューの［**フラッシュ使用時の露出補正**］を使うと、背景の明るさだけを補正することができます（□167）。

関連ページ

- 露出補正値を変えながら撮影する →「オートブラケティングの撮影方法」（□115）
- Fn1ボタンとコマンドダイヤルの操作で、露出補正を設定できるようにする → ［**Fn1ボタンの機能**］（□179）

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

撮影モードP、S、A、Mのみ

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のAUTO（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

• P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したホワイトバランスが自動的に選ばれます。

ホワイトバランス		設定される色温度	内容
AUTO オート		約3500～8000K※	カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。ほとんどの撮影状況に適しています。
	標準		
	電球色を残す		
電球		約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯		―	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
	ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
	電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
	温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
	高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
晴天		約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
フラッシュ	約5400K※	内蔵フラッシュや別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天	約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
PRE プリセットマニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（□87）。

※ 微調整が0の場合の値です。

ホワイトバランスの設定方法

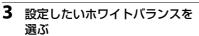
1 ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ボタン

インフォ設定画面

2 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［**ホワイトバランス**］を選んでボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

撮影メニュー［ホワイトバランス］

ホワイトバランスは撮影メニュー（🕮162）でも設定できます。

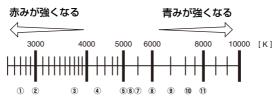
AUTO（オート）について

AUTO（オート）の場合は、撮影メニューで［**標準**］と［**電球色を残す**］から選べます。［**電球色を残す**］を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。

（蛍光灯）について

（蛍光灯）の場合は、撮影メニュー（🕮162）で蛍光灯の種類を選べます。

色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。

①		ナトリウム灯混合光（約2700K）
②		電球（約3000K）
		電球色蛍光灯（約3000K）
③		温白色蛍光灯（約3700K）
④		白色蛍光灯（約4200K）
⑤		昼白色蛍光灯（約5000K）
⑥		晴天（約5200K）
⑦		フラッシュ（約5400K）
⑧		曇天（約6000K）
⑨		昼光色蛍光灯（約6500K）
⑩		高色温度の水銀灯（約7200K）
⑪		晴天日陰（約8000K）

関連ページ

ISO（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、ホワイトバランスを設定できるようにする → ［**ISO/Fn2ボタンの機能**］（🕮180）

WB

ホワイトバランスを微調整する

撮影モードP、S、A、Mのみ

ホワイトバランスは、さらに微調整できます。

1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

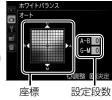
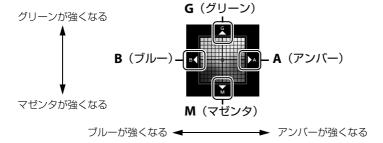
MENUボタン

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で設定したいホワイトバランスを選びます。
- ホワイトバランスを選んでマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**オート**］の場合は、［**標準**］または［**電球色を残す**］を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**蛍光灯**］の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。

2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。

座標　設定段数

WB

• 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

• A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。
• G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。

3 微調整値を決定する

• ㊍ボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。
• ホワイトバランスを微調整すると、液晶モニターにアスタリスク（✱）が表示されます。

WB

ホワイトバランスの微調整について

• ［**プリセットマニュアル**］の場合、微調整画面は表示されません。
• ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを電球マーク（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する →「オートブラケティングの撮影方法」（□115）

基準となる白を測定してホワイトバランスを設定する（プリセットマニュアル）

撮影モードP、S、A、Mのみ

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明（自然光と人工照明とが混ざった室内撮影）や特殊照明下で、前記のAUTO（オート）や電球マーク（電球）などの各設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

取得データ	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します。
撮影データ	SDカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□90）。

■ プリセットマニュアルデータの新規取得

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードがMの場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（□53）。
- レリーズモード（□59）が［動画マーク］（**動画撮影**）のときは、プリセットマニュアルホワイトバランスデータは取得できません。

WB

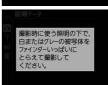
1 ［プリセットマニュアル］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［取得データ］を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で［**取得データ**］を選んで▶を押します。
- 右の画面が表示されたら、［**はい**］を選んでOKボタンを押します。

- 右のメッセージが画面に表示された後、プリセットマニュアルデータ取得モードに入ります。

データ取得についてのご注意

プリセットマニュアルデータとして保存できる［**取得データ**］は1つだけです。カメラでプリセットマニュアルデータを取得するたびに、以前保存した［**取得データ**］は、新しいデータに置き換えられますのでご注意ください。

プリセットマニュアルデータについて

ご購入時のプリセットマニュアルデータは、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。

3 PREの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体を液晶モニターの画面いっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

4 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- データが取得されると、液晶モニターに「取得に成功しました」と表示されます。
- 液晶モニターに右のように表示された場合、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。もう一度手順3からやり直してください。

プリセットマニュアルデータのその他の取得方法

プリセットマニュアルデータは、メニュー操作で取得する他に次の方法で取得できます。

- インフォ設定画面で［**ホワイトバランス**］を［**プリセットマニュアル**］にしてから、OKボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになります。
- セットアップメニューの［**ISO/Fn2 ボタンの機能**］（□180）が［**ホワイトバランス設定**］になっているときに、［**ホワイトバランス**］を［**プリセットマニュアル**］にしてから**ISO**（Fn2）ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになります。

WB

■ SDカード内の画像のホワイトバランスデータを使う

ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータは、SDカード内にある撮影済み画像（撮影データ）からコピーすることもできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［撮影データ］を選ぶ

- ［**撮影データ**］を選んで▶を押します。

3 ［データを選択］を選ぶ

- ［**データを選択**］を選んで▶を押します。
- ［**表示画像で設定**］を選ぶと、前回設定した表示中の画像のホワイトバランスデータがそのまま使えます。

4 使いたい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

- 使いたい画像が保存されているフォルダーを選んで▶を押します。

WB

5 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。

6 ホワイトバランスデータをコピーする

- OKボタンを押してデータをコピーします。

ホワイトバランスデータをコピーしたい画像について

選んだ画像は、拡大ボタンを押している間、拡大して確認できます。

拡大ボタン

画像処理

画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

撮影モードP、S、A、Mのみ

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

ピクチャーコントロールを選ぶ

このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

- P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したピクチャーコントロールが自動的に選ばれます。

ピクチャーコントロール	説明
SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

1 ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ボタン

インフォ設定画面

2 ［ピクチャーコントロール］を選ぶ

- ［**ピクチャーコントロール**］を選んで㊉ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ㊉ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

撮影メニュー［ピクチャーコントロール］

ピクチャーコントロールは撮影メニュー（□162）でも設定できます。

［カスタムピクチャーコントロール］について

撮影メニューで［**カスタムピクチャーコントロール**］を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり（□98）、SDカードを使って、登録したピクチャーコントロールに対応するカメラやソフトウェアと共用する（□101）ことができます。

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール（□98）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」があります。

1　調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。
- ピクチャーコントロールの一覧画面で、マルチセレクターの▶を押します。

2　ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（□95）を選んで、◀または▶で値を設定します。
- ［**クイック調整**］を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します（□95）。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3　Ⓞボタンを押す

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンにアスタリスク（＊）が表示されます。

レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［**−2**］～［**+2**］の調整ができます。 • −（マイナス）側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、+（プラス）側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば［**ビビッド**］を選んで+側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整します。［**0**］（輪郭強調しない）～［**9**］までの手動調整と、自動で調整する［**A**］（オート）があります。 • 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。
	コントラスト	画像のコントラストを調整します。［**−3**］～［**+3**］までの手動調整と、自動で調整する［**A**］（オート）があります。 • −側にすると軟調な画像になり、+側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは−側が、霞んだ遠景の撮影などには+側が適しています。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。［**−1**］～［**+1**］の調整ができます。 • −側にすると暗くなり、+側にすると明るくなります。
	色の濃さ（彩度）※2	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。［**−3**］～［**+3**］までの手動調整と、自動で調整する［**A**］（オート）があります。 • −側にすると鮮やかさが抑えられ、+側にするとより鮮やかになります。
	色合い（色相）※2	画像の色合いを調整します。［**−3**］～［**+3**］までの調整ができます。 • 肌色を基準にした場合、−側にすると赤みが増し、+側にすると黄色みが増します。
	フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［**OFF**］、［**Y**］、［**O**］、［**R**］、［**G**］から選べます（□96）。
	調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［**B&W**］、［**Sepia**］、［**Cyanotype**］、［**Red**］、［**Yellow**］、［**Green**］、［**Blue Green**］、［**Blue**］、［**Purple Blue**］、［**Red Purple**］から選べます（□97）。

※1 ［**ニュートラル**］と［**モノクローム**］はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□98）の場合も、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

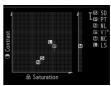
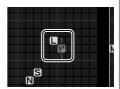
※2［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときは、表示されません。
※3［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

［輪郭強調］、［コントラスト］、［色の濃さ（彩度）］の［A］（オート）についてのご注意

同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。

ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中に🔍ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。
- ［**モノクローム**］の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ（彩度）**］に［**A**］（オート）が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時はアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。

［モノクローム］の［フィルター効果］について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。［**フィルター効果**］で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

[モノクローム]の[調色]について

[**調色**]の項目([**B&W**]以外)を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。

カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**カスタムピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［編集と登録］を選ぶ

- ［**編集と登録**］を選んで▶を押すと、［編集・登録対象を選択］画面が表示されます。

3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合はOKボタンを押します。［登録先の選択］画面が表示されます（手順5へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- OKボタンを押すと［登録先の選択］画面が表示されます。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

5 登録先を選択する

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。

6 登録名を編集する

- 登録先を選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。

- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、Ⓚボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、☒（Ⓐ/O‑n）ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 名前を1文字削除する場合は、☒（Ⓐ/O‑n）ボタンを押しながら◀または▶を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑ボタンを押します。

7 編集を終了する

- 入力を終えたら、⊕ボタンを押します。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

⊕ボタン

登録名変更について

［**カスタムピクチャーコントロール**］で［**登録名変更**］を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの登録名を変更できます。

登録したピクチャーコントロールを削除するには

［**カスタムピクチャーコントロール**］で［**削除**］を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

SDカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する

付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2のピクチャーコントロールユーティリティー（Picture Control Utility）で作成したカスタムピクチャーコントロールを、SDカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーすることができます。また、SDカード上の不要なカスタムピクチャーコントロールを削除することもできます。

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［メモリーカードを使用］を選ぶ

- ［**メモリーカードを使用**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［メモリーカードを使用］画面が表示されます。

2 ［カメラに登録］、［メモリーカードから削除］または［メモリーカードにコピー］を選ぶ

［**カメラに登録**］：

- SDカードにあるカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。

［**メモリーカードから削除**］：

- SDカードにあるカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。右のような確認画面が表示されるので、［**はい**］を選んで㊀ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

［**メモリーカードにコピー**］：

- カメラにあるカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーできます。SDカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでⓀボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがSDカードにコピーされます。

SDカードへのコピー /SDカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロール（スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景）は、コピーや削除ができません。
- SDカードに保存できるカスタムピクチャーコントロールは、99個までです。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング）

撮影モードP、S、A、Mのみ

撮影の前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（□78）。

アクティブD-ライティング
［**OFF しない**］

アクティブD-ライティング
［**A オート**］

撮影メニュー［アクティブD-ライティング］と画像編集メニュー［D-ライティング］の違い

［**アクティブD-ライティング**］を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、［**D-ライティング**］は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

アクティブD-ライティングの設定方法

1 **ボタンを押してインフォ設定画面を表示する**

ボタン

インフォ設定画面

2 **[アクティブD-ライティング]を選ぶ**

- [**アクティブD-ライティング**]を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 **設定したいアクティブD-ライティングの効果の度合いを選ぶ**

- [**A オート**]、[**H+ より強め**]、[**H 強め**]、[**N 標準**]、[**L 弱め**]、[**OFF しない**]に設定できます。

- OKボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- アクティブD-ライティングを設定していても、ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- レリーズモード（□59）が［動画］（**動画撮影**）ときは、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

関連ページ

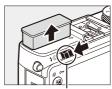
- アクティブD-ライティングを行わない画像と行う画像を2枚続けて撮影する
→「オートブラケティングの撮影方法」（□115）
- **ISO**（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルでアクティブD-ライティングの効果の度合いを切り換える → ［**ISO/Fn2ボタンの機能**］（□180）

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュを使って撮影する

撮影状況に合わせて、カメラの内蔵フラッシュを発光させたり、発光方式（フラッシュモード）を切り換えたりすることで、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

1 内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュを上げると、フラッシュの充電が始まります。

フラッシュポップアップレバー

2 フラッシュモードを設定する（□106）

- 🍴の場合、フラッシュモードは［⚡］（**通常発光**）に固定され、変更できません。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 充電完了後にシャッターボタンを半押しすると、フラッシュランプが点灯し、液晶モニターにフラッシュレディーマーク（⚡）が点灯します。

撮影モード📷、🏃、👤、🌷、🌃、🎉、🐾の場合：

- 必要に応じて発光します。フラッシュが不要な場合は発光しません。
- 発光させたくないときは、内蔵フラッシュを収納するか、フラッシュモードを発光禁止にしてください。

撮影モードP、S、A、M、🍴の場合：

- 周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。
- 発光させたくないときは、内蔵フラッシュを収納してください。

フラッシュモードを設定する

設定できるフラッシュモードは、撮影モードによって異なります。

撮影モード、、、、、	
AUTO	通常発光オート（自動発光）
AUTO	赤目軽減オート（自動発光）
	発光禁止

撮影モード	
AUTO SLOW	赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター
AUTO SLOW	通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター
	発光禁止

撮影モードP、A	
	通常発光
	赤目軽減発光
SLOW	赤目軽減発光＋スローシャッター
SLOW	通常発光＋スローシャッター
REAR	リアシンクロ＋スローシャッター※

撮影モードS、M	
	通常発光
	赤目軽減発光
REAR	リアシンクロ

撮影モード	
	通常発光

※ フラッシュモードを設定すると、**SLOW**の文字も表示されます。

- 撮影モード, , , , , , , , , , , , のときは、フラッシュモードは［］（**発光禁止**）に固定されます。

1 ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ボタン

インフォ設定画面

2 ［フラッシュモード］を選ぶ

- ［**フラッシュモード**］を選んでボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいフラッシュモードを選ぶ

- Ⓞボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻り、撮影できます。

フラッシュモード表示について

各フラッシュモードのアイコンの意味は次の通りです。

- **AUTO 通常発光オート（自動発光）**：暗いときや逆光のときに、内蔵フラッシュが自動的に発光します。
- **◉ 赤目軽減発光**：人物撮影に適しています。フラッシュが本発光する前に小光量で数回発光する「プリ発光」で、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。プリ発光するため、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
- **⊘ 発光禁止**：暗いときや逆光のときでも、内蔵フラッシュは発光しません。
- **SLOW スローシャッター**：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。
- **REAR リアシンクロ**：シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。

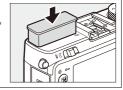
リアシンクロ

リアシンクロ以外

関連ページ

Fn1ボタンとコマンドダイヤルの操作で、フラッシュモード設定を切り換えられるようにする → Y［**Fn1ボタンの機能**］（□179）

フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で軽く押し下げて、収納してください。

内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュは無理に押し下げないでください。故障の原因となります。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するために、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。
- 高いISO感度で近くの被写体を撮影する場合は、白とびが発生することがあります。

調光量を補正して撮影する（調光補正）

撮影モードP、S、A、Mのみ

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の調整ができます。

調光補正の設定方法

1 ⓘボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ⓘボタン

インフォ設定画面

2 ［フラッシュ調光補正］を選ぶ

- ［**フラッシュ調光補正**］を選んで⊛ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 フラッシュの調光補正値を選ぶ

- 1/3段ステップで－3段～＋1段の範囲で設定できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋（プラス）側に、暗くしたいときは－（マイナス）側に補正します。

- ⊛ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。
- フラッシュ調光補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

別売スピードライトの調光補正について

- 別売のスピードライト（□214）使用時も、調光補正ができます。SB-910、SB-900、SB-800、SB-700およびSB-600使用時は、スピードライト側でも調光補正ができます。
- カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合は、両方の補正値を加算します。

関連ページ

フラッシュ撮影時に、露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する
→ 📷［**フラッシュ使用時の露出補正**］（□167）

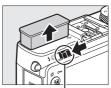
調光量を固定して撮影する（FVロック）

フラッシュの調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

FVロック中にISO感度や絞り値を変更しても、カメラがフラッシュ発光量を補正し、FVロックは維持されます。

1 セットアップメニュー［Fn1ボタンの機能］（□179）を［FV-L］に設定する

• 設定後、MENUボタンを押して、メニュー画面を終了します。

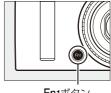
2 内蔵フラッシュを上げる

フラッシュポップアップレバー

3 被写体にピントを合わせる

• 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

4 モニター発光を行う

Fn1ボタン

- 液晶モニターに⚡が点灯していることを確認し、Fn1ボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、液晶モニターに⚡L（FVロック）マークが表示されます。

5 構図を変更する

6 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- もう一度Fn1ボタンを押すと、FVロックが解除され、液晶モニターの⚡Lが消灯します。

✔ 内蔵フラッシュのFVロックについて

内蔵フラッシュの場合、FVロックは撮影メニュー［**内蔵フラッシュ発光**］（□168）を［**TTL モード**］に設定時のみ機能します。

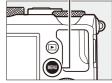
別売スピードライトのFVロックについて

別売のスピードライト（□215）の発光モードがTTL、「モニター発光あり」のAAまたはAのいずれかに設定されている場合も、FVロックを行うことができます。別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

撮影の便利な機能

基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）

ツーボタンリセットにより、簡単にカメラの設定を初期状態に戻すことができます。

i ボタンとMENUボタンを同時に約2秒間押すと、液晶モニターがいったん消灯してから再点灯し、次の各機能が初期設定状態に戻ります。

機能		初期設定値	📖
画質モード		NORMAL	64
画像サイズ		サイズL	66
ホワイトバランス	P、S、A、M	オート	82
微調整値		A-B：0、G-M：0	85
ISO感度	P、S、A、M	ISO 100	74
	上記以外	オート	
レリーズモード	[スポーツ]、[ペット]	連続撮影	59
	上記以外	1コマ撮影	
AFモード		シングルAFサーボ（AF-S）	69
AFエリアモード	[夜景]	ワイドエリアAF	70
	P、S、A、M、[スポーツ]、[クローズアップ]、[ペット]、[料理]、[ビーチ]、[Hi]、[Lo]	ノーマルエリアAF	
	[シーン各種]	顔認識AF	
測光モード	P、S、A、M	マルチパターン測光	78
アクティブD-ライティング	P、S、A、M	しない	103

機能		初期設定値	
オートブラケティング	P、S、A、M	OFF	115、168
[ピクチャーコントロール]の調整値※	P、S、A、M	–	92
露出補正	P、S、A、M	0.0	80
フラッシュ調光補正	P、S、A、M	0.0	109
フラッシュモード	P、S、A、M、	通常発光	106
	、、、、	通常発光オート	
		赤目軽減オート	
		赤目軽減オート＋スローシャッター	
	、、、、、、、、、、Hi、Lo	発光禁止	
プログラムシフトの設定	P	–	49

※ 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

露出、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する（オートブラケティング撮影）

撮影モードP、S、A、Mのみ

明るさ（露出）、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさの調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

オートブラケティングの撮影方法

1 オートブラケティングのセットを選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニュー［**オートブラケティングのセット**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

- オートブラケティングのセットの一覧画面でオートブラケティングの種類を選び、Ⓚボタンを押して設定します。

- 設定後、MENUボタンを押して、メニュー画面を終了します。

2 ボタンを押してインフォ設定画面を表示する

ボタン

インフォ設定画面

3 ［オートブラケティング］を選ぶ

- ［**オートブラケティング**］を選んで㊍ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

4 オートブラケティングの設定を変える

AEブラケティング撮影の場合：

- 補正ステップを［**AE0.3**］～［**AE2.0**］から選びます。設定した数値が大きいほど、露出が変わる度合いが大きくなります。

WBブラケティング撮影の場合：

- 補正ステップを［**WB1**］～［**WB3**］から選びます。設定した数値が大きいほど、ホワイトバランスが変わる度合いが大きくなります。

ADLブラケティング撮影の場合：

- ［**ADL**］を選んでください。

- ㊍ボタンを押して設定します。

5 構図を決めて撮影する

AEブラケティング撮影の場合：

- シャッターボタンを全押しするたびに、設定した補正ステップで「＋（プラス）側に補正」→「補正なし」→「－（マイナス）側に補正」の順に合計3コマ撮影します。
- シャッタースピードと絞り値は、補正された値が表示されます。

WBブラケティング撮影の場合：

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した補正ステップで「補正なし」→「A方向（アンバーを強め）に補正」→「B方向（ブルーを強め）に補正」の順に撮影されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、液晶モニターの記録可能コマ数表示が点滅し、シャッターがきれません。新しいSDカードに交換すると撮影できます。

ADLブラケティング撮影の場合：

- シャッターボタンを全押しするたびに、「補正なし」→「補正あり」の順に合計2コマ撮影します。
- 「補正あり」は、［**アクティブD-ライティング**］（□104）で設定している効果の度合いになります。［**アクティブD-ライティング**］が［**しない**］のときは、［**オート**］の設定で撮影します。

ブラケティングの進行状況

- AEブラケティングの進行状況は、液晶モニターのオートブラケティングインジケーターで確認できます。
  - −··¦··0··¦···+: シャッターボタンを全押しすると、1コマ目の画像を撮影します。
  - −··¦··0·····+: シャッターボタンを全押しすると、2コマ目の画像を撮影します。
  - −··¦··0······+: シャッターボタンを全押しすると、3コマ目の画像を撮影します。

- ADLブラケティング撮影時には、液晶モニターで次に撮影するアクティブD-ライティングの設定が下線表示されます。

オートブラケティング撮影をやめるには

手順4（□116）の画面で［**OFF**］を選ぶと、オートブラケティング撮影を解除します。

オートブラケティングについて

- レリーズモードを［□］（**連続撮影**）に設定している場合でも、オートブラケティング撮影が終了した時点で撮影はいったん停止します。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば残りの撮影を再開できます。いったん電源をOFFにしてSDカードを交換したときも同様です。
- 撮影中にP、S、A、M以外の撮影モードに変更すると、オートブラケティング撮影は終了します。
- AE ブラケティングに露出補正（□80）を組み合わせると、露出補正値を基準にしてオートブラケティング撮影ができます。

AEブラケティング

AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード/絞り値）が異なります。

撮影モード	操作
P（プログラムオート）	シャッタースピードと絞り値※1
S（シャッター優先オート）	絞り値※1
A（絞り優先オート）	シャッタースピード※1
M（マニュアル）	シャッタースピード※2

※1 撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］（□76）が［**する**］のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］（□76）が［**する**］のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

関連ページ

ISO（Fn2）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、オートブラケティングの設定を変えられるようにする → ［**ISO/Fn2ボタンの機能**］（□180）

設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と時間間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。

- インターバルタイマー撮影は、レリーズモードを［S］（**1コマ撮影**）または［連続撮影アイコン］（**連続撮影**）に設定して撮影してください。
- メニューを操作する前に、カメラを三脚などに固定して、構図を決めてください。

インターバルタイマー撮影の開始

1 撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**インターバルタイマー撮影**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。［インターバルタイマー撮影］画面が表示されます。

MENUボタン

2 ［開始トリガー］（開始方法）を設定する

- **すぐに撮影する場合、**［**即時スタート**］を選んで▶を押します（手順4へ）。
- **開始時間を決めて撮影する場合、**［**開始時刻設定**］を選んで▶を押します（手順3へ）。

3 ［開始時刻］を設定する

- ◀または▶を押して時間、分を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- ［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合、この画面は表示されません。

4 ［撮影間隔］（インターバル）を設定する

- ◀または▶を押して時間、分、秒を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。

5 ［撮影回数］を設定する

- ◀または▶を押して撮影回数を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。

撮影回数

6 インターバルタイマー撮影を開始する

- ［**開始**］を選んでOKボタンを押します。［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合は、約5秒後に撮影を開始します。
  ［**開始時刻設定**］を選んだ場合は、設定した時刻に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔で撮影を繰り返します。
- 設定のみを行いたいときは、［**終了**］を選んでOKボタンを押すと、撮影メニューに戻ります。

✔ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの［**地域と日時**］（🕮172）で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚などに固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー EN-EL20、または別売のパワーコネクター EP-5CとACアダプター EH-5bをお使いください。

✔ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 設定した［**開始時刻**］が現在時刻後1分以内の場合や、シャッタースピードが**Bulb**の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- 設定した撮影間隔によっては、撮影の合間は液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します（バッテリー使用時）。
- インターバルタイマー撮影中の画像再生はできません。撮影直後の画像は表示されます。
- インターバルタイマー撮影中は、マニュアル優先オートフォーカス（🕮68）は使えません。手動でピントを合わせたい場合は、フォーカスモードセレクターを**MF**に切り換えてください。
- SDカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるSDカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください。

GPS情報を画像に記録する

このカメラは、アクセサリーターミナル（□4）に接続した別売のGPSユニット GP-1と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。

GP-1との接続について

- カメラの電源をOFFにしてから、カメラとGP-1を接続します（□218）。詳しくはGP-1の使用説明書をご覧ください。
- 内蔵フラッシュ使用時は、GP-1 をアクセサリーシューに取り付けずにお使いください。
- GP-1と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報にGPSデータのページ（□130）が追加されます。

GPSユニットと接続中のカメラの設定について

MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**GPS**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、GPS機器と接続時のオートパワーオフ、取得したGPSデータの表示、GPSによる日時合わせを設定できます。

- ［**GPS**］設定の［**オートパワーオフ**］では、カメラとGP-1を接続しているときのオートパワーオフを設定できます。

有効	カメラを操作しないまま、セットアップメニュー［**オートパワーオフ時間**］（□175）で設定した時間が経過すると待機状態になり、そのまま操作しない状態が続くと、電源がOFFになります。 • カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。
無効	GP-1と接続中は、オートパワーオフが動作しません。

- ［**情報表示**］では、GP-1接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
方位	表示しません。
UTC	UTC（協定世界時）を表示。UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- ［**GPSによる日時合わせ**］が［**する**］の場合、GP-1接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GP-1を使用して日時を合わせないときは、［**しない**］を選んでください。

GP-1使用時の表示について

GP-1との通信状態は、液晶モニターのGPS通信マークGPSで確認できます。

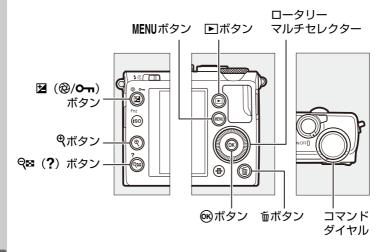
- GPS**（点灯）：**GP-1との通信中です。
- GPS**（点滅）：**GP-1が取得している情報が確定していないため、GPSデータは記録されません。GPSが点灯するまでお待ちください。
- GPS**（消灯）：**GP-1との通信が2秒以上途絶えると、GPSが消灯します。この状態で撮影した画像データにはGPSデータは記録されません。

画像の再生

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

▶ボタン

1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。 • ロータリーマルチセレクターを回すか、コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。

画像情報を切り換える	▲/▼	▲または▼を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます（□126）。
複数画像を一覧表示する	（?）	サムネイル表示モード（□132）に切り換わります。
画像を拡大する		表示中の画像を拡大表示します（□135）。
画像を削除する		表示中の画像を削除します（□138）。
画像を保護する	（/）	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□137）。
撮影に戻る	/	撮影画面に戻ります。
画像を編集する	OK	画像編集メニューを表示します（□183）。画像編集メニューは、MENUボタンを押して、タブのアイコンを選んでも表示できます。
動画を再生する	OK	マークが表示されている画像の場合、動画を再生します（□41）。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□158）。

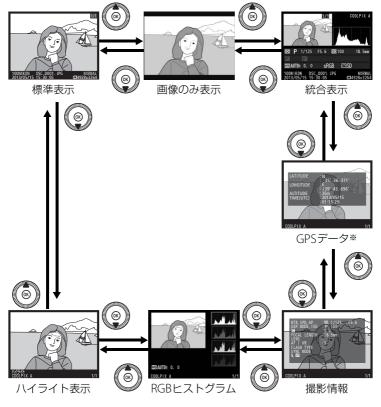
縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□160）を［**する**］に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

撮影直後の画像確認について

- 再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□159）を［**する**］に設定すると、ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に約1秒間液晶モニターに表示します。
- レリーズモードが［］（**連続撮影**）のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を表示することができます。表示させたい画像情報を、再生メニューの［**再生画面設定**］（□159）で選択します。1コマ表示モードのときにマルチセレクターの▲または▼を押すと、画像情報を切り換えられます。

※GPS（□122）を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示

1. プロテクト設定の有無 137
2. 画像編集の有無 183
3. コマ番号/フォルダー内全画像数
4. 画質モード 64
5. 画像サイズ 66
6. ファイル名 177
7. 撮影時刻 .... 23、172
8. 撮影日付 .... 23、172
9. フォルダー名 163

ハイライト表示

1. 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します
2. コマ番号/フォルダー内全画像数... 163
3. カメラ名

RGBヒストグラム

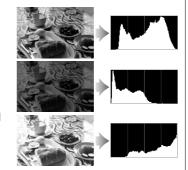
1. RGBのヒストグラム
2. 赤色（R）のヒストグラム
3. 緑色（G）のヒストグラム
4. 青色（B）のヒストグラム
5. コマ番号/フォルダー内全画像数... 163
6. ホワイトバランス.......................... 82
   ホワイトバランス微調整........... 85
   プリセットマニュアル 87

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で🔍ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。🔍（?）ボタンを押すと画像を縮小表示します。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋（プラス）側にすれば山が右側に寄り、－（マイナス）側にすれば山が左側に寄ります。
屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。

1	測光モード	78
	シャッタースピード	50、52
	絞り値	51、52
2	撮影モード	26、32、48
	ISO感度※1	74
3	露出補正値	80
4	焦点距離	
5	レンズ情報	
6	フォーカスモード	68、73
7	フラッシュの種類	105、213
8	フラッシュモード	106
9	フラッシュ発光方式	168
	フラッシュ調光補正値	109
10	ホワイトバランス	82
	ホワイトバランス微調整	85
	プリセットマニュアル	87
11	色空間	165
12	ピクチャーコントロール	92
13	クイック調整※2	95
	元になったピクチャーコントロール※3	92
14	輪郭強調	95
15	コントラスト	95
16	明るさ	95
17	色の濃さ（彩度）※4	95
	フィルター効果※5	95
18	色合い（色相）※4	95
	調色※5	95
19	高感度ノイズ低減	166
	長秒時ノイズ低減	166
20	アクティブD-ライティング	103
21	画像編集メニュー（0183）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。	
22	画像コメント	173

※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2［**スタンダード**］、［**ビビッド**］、［**ポートレート**］、［**風景**］のとき表示します。
※3［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、カスタムピクチャーコントロールのとき表示します。
※4［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示しません。
※5［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示します。

GPSデータ※

1	緯度
2	経度
3	標高
4	UTC（協定世界時）

※ 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

統合表示

1	コマ番号/フォルダー内全画像数	14	シャッタースピード……50、52
2	プロテクト設定の有無……137	15	絞り値……51、52
3	カメラ名	16	ISO感度※……74
4	画像編集の有無……183	17	画像コメントの有無……173
5	画像のヒストグラムを表示します（□128）。 横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。	18	焦点距離
		19	GPSデータの有無……122
		20	アクティブD-ライティングの強度……104
6	画質モード……64	21	ピクチャーコントロール……92
7	画像サイズ……66	22	色空間……165
8	ファイル名……177	23	フラッシュモード……105
9	撮影時刻……23、172	24	ホワイトバランス……82 ホワイトバランス微調整……85 プリセットマニュアル……87
10	撮影日付……23、172		
11	フォルダー名……163	25	フラッシュ調光補正値……109
12	測光モード……78	26	露出補正値……80
13	撮影モード……26、32、48		

※ 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

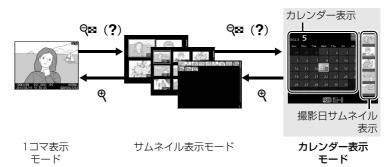
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに⊖▦（?）ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り換わります。

▌▌サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす	⊖▦（?）	⊖▦（?）ボタンを押すごとに、表示コマ数が増えます（4コマ/9コマ/72コマ）。
表示コマ数を減らす	⊕	⊕ボタンを押すごとに、表示コマ数が減ります（9コマ/4コマ/1コマ）。
画像を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターを操作すると、黄色の枠（カーソル）が動いて、拡大表示（□135）や削除（□138）、プロテクト（□137）の対象となる画像を選べます。 • ロータリーマルチセレクターを回すか、コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
1コマ表示する	OK	サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
画像を削除する	🗑	選んだ画像を削除します（□138）。
画像を保護する	☒（⊛/O‒π）	選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します（□137）。
撮影に戻る	シャッターボタン / ▶	撮影画面に戻ります。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□158）。

撮影した日付ごとに画像を表示する（カレンダー表示モード）

72コマ表示時（□132）に（?）ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り換わります。

■ カレンダー表示モードでの操作方法

表示を切り換える	（?）	• カレンダー表示時に（?）ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。 • 撮影日サムネイル表示時に（?）ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
72コマ表示に戻る/画像を拡大する		• カレンダー表示時は72コマ表示に切り換わります。 • 撮影日サムネイル表示時は、ボタンを押している間、拡大表示をします。

日付を選ぶ/画像を選ぶ	(マルチセレクター)	• カレンダー表示時は、マルチセレクターを操作すると黄色の枠（カーソル）が動いて、撮影した日付を選べます。 • 撮影日サムネイル表示時は、マルチセレクターの▲または▼を押して1コマ表示（0124）や拡大表示（0135）、プロテクト（0137）、削除（0138）の対象となる画像を選べます。 • ロータリーマルチセレクターを回すか、コマンドダイヤルを回しても日付や画像を選べます。
1コマ表示する	OK	• カレンダー表示時は、選択した日付の画像を1コマ表示します。 • 撮影日サムネイル表示時は、選択した画像を1コマ表示します。
画像を削除する	(削除ボタン)	• カレンダー表示時にボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。 • 撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別に削除します（0138）。
画像を保護する	(露出補正ボタン)（(絞りボタン)/(プロテクト)）	撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別にプロテクトします（0137）。
撮影に戻る	(シャッターボタン半押し) / (再生ボタン)	撮影画面に戻ります。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（0158）。

画像を拡大表示する

1コマ表示モードのときに🔍ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約31倍、**M**では約23倍、**S**では約15倍です。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲んで表示します。

■ 拡大表示中の操作方法

操作	ボタン	説明	補足
拡大率を上げる	🔍	ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
拡大率を下げる	Q⊞（?）	ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクター	画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
人物の顔へ移動させる	‹i›	‹i›ボタンを押すと、次の操作ができます。もう一度押すと、通常の拡大表示に戻ります。 • マルチセレクターの▲▼◀▶を押すたびに、認識した顔に順次移動します。 • Ⓞボタンを押すと、人物の顔を拡大表示します。	拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。

前後の画像を見る		コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。 • ロータリーマルチセレクターを回しても画像を選べます。
1コマ表示する	OK	拡大表示を終了して、1コマ表示に戻ります。
画像を保護する	⊠（⊛/O┳）	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□137）。
撮影に戻る	/ ▶	撮影画面に戻ります。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□158）。

画像を保護する（プロテクト）

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット：□21、170）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。

- サムネイル表示モード/カレンダー表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 ☒（⊛/O−π）ボタンを押す

- O−πアイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、☒（⊛/O−π）ボタンを押します。

☒（⊛/O−π）ボタン

プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、☒（⊛/O−π）ボタンと🗑ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトされている画像は削除できません。

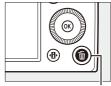
再生中の画像を削除する

🗑ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 **削除する画像を選ぶ**

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、削除する画像を選択します。

2 **🗑ボタンを押す**

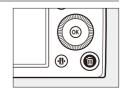
- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

🗑ボタン

1コマ表示モード

サムネイル表示モード

カレンダー表示モード
（撮影日サムネイル表示）

3 **もう一度🗑ボタンを押す**

- 表示中の画像が削除されます。

> **選んだ日付の画像を削除するには**
>
> カレンダー表示モードのカレンダー表示時に、日付を選んで🗑ボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
DATE **日付選択**	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します（□141）。
ALL **全画像削除**	［**再生フォルダー設定**］（□159）で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

■ 選択画像削除

1 再生メニューの［削除］で［選択画像削除］を選ぶ

- MENUボタンを押して再生メニューの［**削除**］で［**選択画像削除**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、削除画像の選択画面が表示されます。

MENUボタン

2 削除する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選びます。
- （?）ボタンを押して設定します。
  設定するとアイコンが表示され、もう一度（?）ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。

（?）ボタン

- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

3 設定を完了する

- ボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で［**はい**］を選んでボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。

■ 日付選択

1 ［削除］画面で［日付選択］を選ぶ

- ［**日付選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 日付を選ぶ

- 日付を選んで▶を押すと、日付の横にチェック☑が入ります。もう一度▶を押すと解除されます。
- 削除する日付全てに設定してください。
- ボタン（?）ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度ボタン（?）ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

（?）ボタン

3 設定を完了する

- ボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で［**はい**］を選択し、ボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。

パソコン、プリンター、テレビとの接続

ViewNX 2を使う

ViewNX 2は、画像や動画の転送、閲覧、編集、共有、これら全てを可能とするオールインワンソフトです。付属CD-ROM「ViewNX 2」を使ってインストールできます。

ViewNX 2をインストールする

■ 対応OS

Windows	Macintosh
Windows 8 / Windows 7 / Windows Vista / Windows XP	Mac OS X 10.6、10.7、10.8

対応OSに関する最新情報、動作環境の詳細は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

1 パソコンを起動し、付属のCD-ROM「ViewNX 2」をCD-ROMドライブに入れる

- Windows：ディスク（CD-ROM）に対する操作の指示が画面に表示されたときは、画面の指示に従って［**Welcome**］を選びます。
- Mac OS：［ViewNX 2］ウィンドウが表示されるので、ウィンドウ内の［**Welcome**］アイコンをダブルクリックします。

2 ［言語選択］ダイアログで言語を選択し、［Welcome］ウィンドウを開く

- ［言語選択］ダイアログのメニューに選択したい言語がない場合は、［**地域選択**］をクリックし、地域を選択してから言語を選択してください。
- ［**次へ**］をクリックすると、［Welcome］ウィンドウが開きます。

3 インストールを開始する

- インストールをする前に、［Welcome］ウィンドウの［**インストールガイド**］をクリックして、インストール方法のヘルプと動作環境を確認することをおすすめします。
- ［Welcome］ウィンドウの［**インストール（推奨）**］をクリックします。
- 画面の指示に従ってインストールを続けてください。

4 インストール終了画面が表示されたら、インストールを終了する

- Windows：［**はい**］をクリックします。
- Mac OS：［**OK**］をクリックします。

以下のソフトウェアがインストールされます。

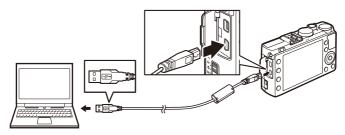
- ViewNX 2（以下の3つのモジュールで構成されています）
  - Nikon Transfer 2：画像をパソコンに取り込みます
  - ViewNX 2：取り込んだ画像の閲覧、編集、印刷ができます
  - Nikon Movie Editor：取り込んだ動画の簡易編集ができます
- Panorama Maker（複数コマに分割して撮影した風景などを、1枚のパノラマ写真に合成できます）
- QuickTime（Windowsのみ）

5 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

パソコンに画像を取り込む

1 画像の入ったSDカードを用意する

SDカード内の画像は、次の方法でパソコンに取り込めます。

- SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブル UC-E16でカメラとパソコンを接続します。カメラの電源が自動的にONになります。

- カードスロットを装備したパソコンのときは、カードスロットに直接SDカードを差し込む。
- 市販のカードリーダーをパソコンに接続して、SDカードをセットする。

起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

Windows 7をお使いの場合

右の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

1［**画像とビデオのインポート**］の［**プログラムの変更**］をクリックすると表示される画面で、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選んで、［**OK**］をクリックする

2［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックする

SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。Nikon Transfer 2が起動するまでお待ちください。

2 画像をパソコンに取り込む

- Nikon Transfer 2の［**オプション**］の［**転送元**］に、接続したカメラ名またはリムーバブルディスクのデバイス名が表示されていることを確認します（①）。
- ［**転送開始**］ボタンをクリックします（❷）。

- 記録されている全ての画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。

3 接続を解除する

- カメラを接続している場合は、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを抜きます。
- カードリーダーやカードスロットをお使いの場合は、パソコン上でリムーバブルディスクの取り外しを行ってから、カードリーダーまたはSDカードを取り外してください。

USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

画像を見る

ViewNX 2を起動する

- 画像の取り込みが終わると、ViewNX 2が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。
- ViewNX 2の詳しい使い方は、ViewNX 2のヘルプを参照してください。

ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows：デスクトップの［ViewNX 2］のショートカットアイコンをダブルクリックします。
- Mac OS：Dockの［ViewNX 2］アイコンをクリックします。

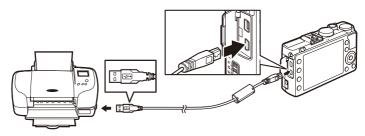
画像をプリンターで印刷する

PictBridge（ピクトブリッジ：□242）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブル UC-E16で直接接続してSDカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFF、プリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

3 カメラの電源が自動的にONになる

- 正しく接続されると、液晶モニターに右の画面が表示された後、撮影された画像が表示されます。

✔ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、充分に充電されたバッテリー EN-EL20、または別売のパワーコネクター EP-5CとACアダプター EH-5bを組み合わせてお使いになることをおすすめします。
- ダイレクトプリントする画像を撮影する場合は、撮影メニューの［**色空間**］（□165）を［**sRGB**］にすることをおすすめします。

✔ USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に🔍ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します（□135）。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- 🔍▦（?）ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。
  🔍ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

2 プリント設定画面を表示する

- ⓄⓀボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押してプリントする用紙のサイズまたは［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）を選んでⓄⓀボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定してⓄⓀボタンを押します。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）または［**なし**］（フチなしプリント）を選んでⓄⓀボタンを押します。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）または［**なし**］（日付を印刷しない）を選んでⓄⓀボタンを押します。
範囲指定	［**する**］を選んで、▶を押すと、［範囲指定］画面が表示されます。黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 • 🔍▦（?）ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、🔍ボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 • マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 • ⓄⓀボタンを押すと、プリント範囲が決定します。

4 プリントを開始する

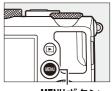
- ［**プリント実行**］を選んで、Ⓞボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓞボタンを押してください。

プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［**プリンターの設定**］を選んでください。

複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（□147）、次の手順でプリントしてください。

1 **「カメラとプリンターを接続する」の手順3で、画像を表示中にMENUボタンを押す**

MENUボタン

2 **プリント方法を選んでマルチセレクターの▶を押す**

プリント画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。
日付選択	指定した日付に撮影した画像を全てプリントします。
DPOFプリント	再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］（□153）で、事前に設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数は、手順3の画面に反映されます。
INDEXプリント	SDカードの中のJPEG画像（□64）を一覧できる「インデックス」をプリントします。 • インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像（□64）はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの［**RAW現像**］（□195）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- ［**フチ設定**］と［**範囲指定**］は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、［**範囲指定**］で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

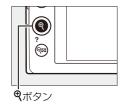
3 プリントする画像と枚数を設定する

［プリント画像選択］または［DPOFプリント］の場合：

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、⊖（?）ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

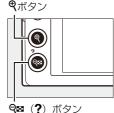
⊖（?）ボタン

- プリントされる画像には、⎙アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、⎙アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ⊕ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- 画像と枚数を設定したら、OKボタンを押します。

⊕ボタン

［日付選択］の場合：

- ▲または▼を押してプリントする日付を選び、▶を押して設定します。
- プリントする枚数は設定できません。選択した日付の画像の全てが1枚ずつプリントされます。
- ⊖（?）ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度⊖（?）ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。
- サムネイル表示中に⊕ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

⊕ボタン
⊖（?）ボタン

- 日付を設定したら、OKボタンを押します。

［INDEXプリント］の場合：

- ［INDEXプリント］画面が表示されたら、OKボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。
- 「1コマだけプリントする」の手順3（□148）と同様に、［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］を設定してください。
- ［**INDEXプリント**］の場合、用紙サイズによっては、プリントできないことがあります（警告画面が表示されます）。

5 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓞⓚボタンを押してください。

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」（□235）をご覧ください。

プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□147）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

1 再生メニューの［プリント指定（DPOF）］で［設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］で［**設定**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

MENUボタン

2 プリントする画像と枚数を設定する

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、Q⊠（?）ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

Q⊠（?）ボタン

- 設定した画像には、⎙アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると⎙アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ⊕ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像と枚数を設定したら、OKボタンを押します。

3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、手順4へ進みます。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、［**撮影情報**］または［**日付**］を選んで▶を押して☐に✔を入れてください。

4 ⓞボタンを押して、プリント指定を終了する

✔ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、［**プリント指定（DPOF）**］の［**撮影情報**］、［**日付**］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［**日付プリント**］を［**あり**］にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（□64）は、プリント指定ができません。RAW画像は画像編集メニューの［**RAW現像**］（□195）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定を一括で解除したいときは

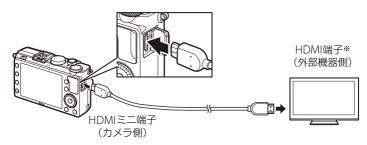
前ページの手順1の画面で［**一括解除**］を選ぶと、［**プリント指定（DPOF）**］で設定した内容を全て解除します。

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。

1 **カメラの電源をOFFにする**

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 **カメラとハイビジョンテレビを接続する**

※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

3 **テレビの入力をHDMI入力に切り換える**

4 **カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す**

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

動画の音声について

テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

テレビとの接続について

HDMI端子のないテレビには接続できません。

HDMIケーブル接続時の動画撮影について

- HDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながら撮影を行えます。
- 動画の撮影時は、撮影メニュー［**動画の設定**］の［**画像サイズ/フレームレート**］(□39)の設定に合わせてHDMI出力を行います。ただし、［**出力解像度**］が［**1080i（インターレース)**］（□157）に設定されている場合は、720pで出力されます。また、［**画像サイズ/フレームレート**］（□39）が［**1920×1080 30p**］または［**1920×1080 25p**］に設定されている場合は、テレビには表示されず、カメラ側の液晶モニターに表示されます。
- 動画記録中は、［**画像サイズ / フレームレート**］（□39）の設定より小さい画像サイズでHDMI出力されることがあります。

端子カバーについて

使用しないときは、カメラのHDMI端子カバーを必ず閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクター EP-5CとACアダプター EH-5bを組み合わせてお使いになることをおすすめします。

HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニュー（📖169）の［**HDMI**］で、HDMI対応機器への出力解像度を設定したり、HDMI-CEC対応テレビのリモコンから制御できるように設定できます。

出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- ［**出力解像度**］が［**オート**］の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。
- 動画の撮影または再生時には、［**出力解像度**］の設定にかかわらず、常に［**オート**］の動作になります。

機器制御

HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 **カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する**

2 **HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする**

- ［**機器制御**］が［**する**］の場合、HDMI-CEC対応テレビに右の画面が表示され、カメラのマルチセレクターやⓀボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- ［**機器制御**］が［**しない**］の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。
- HDMI-CEC対応テレビと接続しているときは、オートパワーオフ時間に関係なく、操作していない状態が約30 分続くとカメラの電源がOFFになります。

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

メニューガイド

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。

MENUボタン

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	🕮
削除	139
再生フォルダー設定	159
再生画面設定	159
撮影直後の画像確認	159

メニュー項目	🕮
縦位置自動回転	160
スライドショー	160
プリント指定（DPOF）	153

関連ページ

「メニュー一覧（▶ 再生メニュー）」（🕮15）

再生フォルダー設定

MENUボタン ➔ ▶再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。
画像の再生（□124）時に表示するフォルダーを設定します。

全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

再生画面設定

MENUボタン ➔ ▶再生メニュー

1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を表示するかどうかを設定できます。

再生画面設定
設定終了 OK
☐ 画像のみ
☐ ハイライト
☐ RGBヒストグラム
☐ 撮影情報
☐ 統合表示

- 画像情報に表示したい項目を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。
- ［**設定終了**］を選んでⓀボタンを押すと、設定を完了します。
- 1コマ表示モードのときにマルチセレクターの▲または▼を押すと、画像情報を切り換えられます（□126）。

撮影直後の画像確認

MENUボタン ➔ ▶再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。

縦位置自動回転

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

✔ 縦位置自動回転についてのご注意

- ［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、セットアップメニューの［**縦横位置情報の記録**］(□174)を［**しない**］にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。［**再生フォルダー設定**］(□159)で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。

開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。

スライドショーを再生する

［**開始**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

1コマ進む/戻る		マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。 • ロータリーマルチセレクターを回すか、コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。

画像情報を切り換える	▲OK▼	▲または▼を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます（□126）。画像情報を［**画像のみ**］に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する/再開する	OK	スライドショーが一時停止します。もう一度Ⓚボタンを押すと再開します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（□124）、サムネイル表示モード（□132）またはカレンダー表示モード（□133）に戻ります。
撮影に戻る		撮影画面に戻ります。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。［**再開**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが再開します。［**終了**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが終了します。

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。

MENUボタン

撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
撮影メニューのリセット	163
記録フォルダー設定	163
画質モード	64
画像サイズ	66
ホワイトバランス	82
ピクチャーコントロール	92
カスタムピクチャーコントロール	98
色空間	165
アクティブD-ライティング	103
長秒時ノイズ低減	166

メニュー項目	🕮
高感度ノイズ低減	166
ISO感度設定	74
レリーズモード	59
内蔵AF補助光の照射設定	167
フラッシュ使用時の露出補正	167
内蔵フラッシュ発光	168
オートブラケティングのセット	168
インターバルタイマー撮影	119
動画の設定	39

設定できない撮影メニュー項目について

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- 各撮影モードで設定できる撮影メニュー項目については、「撮影モード別：設定できる機能一覧」をご覧ください（🕮224）。

撮影メニューのリセット

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

関連ページ

「メニュー一覧（📷 撮影メニュー）」（🕮15）

記録フォルダー設定

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

画像を記録するフォルダー（画像が記録される場所）を選んだり、新しく作成することができます。

フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。

■ 記録フォルダー選択

［**記録フォルダー選択**］を選ぶと、次のような［記録フォルダー選択］画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は次の通りです。

※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、［**空フォルダー削除**］で削除したり、SDカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

■ 新規作成

新しいフォルダーグループを作成します。［**新規作成**］を選ぶと、フォルダー名の編集画面が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力し、🔍ボタンを押すと、フォルダーグループが作成されます。

- 入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（🕮99）。

■ フォルダー名変更

［**フォルダー名変更**］を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、フォルダー名の編集画面が表示されます。5文字までのグループ名を入力し、🔍ボタンを押すと、グループ名が変更され、同時にそのグループ内の全てのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

■ 空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーが全て削除されます。

✔ グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

- 使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。
- グループ内に複数のフォルダーがある場合、［**記録フォルダー選択**］でそのグループを選ぶと、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101NIKON、102NIKONというフォルダーがある場合、［**記録フォルダー選択**］で［**NIKON**］を選ぶと、102NIKONに画像が記録されます。

色空間

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します。［**sRGB**］色空間は画像調整を行わずに再生やプリントをする場合に適しています。［**Adobe RGB**］色空間は、［**sRGB**］に比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

色空間についてのご注意

- カラーマネージメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録すると、彩度が低下する場合があります。

ViewNX 2またはCapture NX 2をお使いの場合

付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2をお使いいただくと、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。

長秒時ノイズ低減

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理の開始時に、右のメッセージが表示されます。処理が完了するまで、次の撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、約2倍になります。

✔ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。
- 動画撮影時は、長秒時ノイズ低減の効果は適用されません。

高感度ノイズ低減

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき、むら、すじ）を低減します。

強め **標準** **弱め**	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど、効果的です。 • ノイズ低減の効果は、強い順に［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
しない	ISO感度が1600以上の高感度になったときのみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は［**弱め**］よりもさらに弱くなります。

内蔵AF補助光の照射設定

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光を自動的に照射します。
暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。

AF補助光

する	オートフォーカスでのピント合わせの際に、自動的にAF補助光を照射します。
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

関連ページ
［**内蔵AF補助光の照射設定**］を設定できる撮影モード → 「撮影モード別：設定できる機能一覧」（□224）

フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

	全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
	背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

内蔵フラッシュ発光

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M マニュアル発光モード	［**Full**］（フル発光）の他、［**1/2**］～［**1/32**］の5段階の発光量を選べます。モニター発光は行いません。

調光補正マークの表示について

［**マニュアル発光モード**］にすると、液晶モニターにマークが点滅します。

別売スピードライト SB-400の装着について

別売スピードライト SB-400を装着してスピードライトの電源をONにすると、撮影メニュー［**内蔵フラッシュ発光**］が［**外付けフラッシュ発光**］に変わり、SB-400の発光方式を［**TTLモード**］または［**マニュアル発光モード**］に設定できます。

オートブラケティングのセット

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

オートブラケティング（115）の種類を設定できます。

AE AEブラケティング	露出値を変えながら撮影します。
WB WBブラケティング	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色みを好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。
ADLブラケティング	アクティブD-ライティング（103）を行わない画像と行う画像を2枚続けて撮影します。

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

MENUボタンを押して、タブの アイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。

MENUボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
カードの初期化（フォーマット）	170	リモコン待機時間（ML-L3）	176
ユーザーセッティングの登録	56	電子音設定	176
ユーザーセッティングのリセット	58	シャッター音設定	177
液晶モニターの明るさ	170	連番モード	177
モニター表示設定	171	MFゲージ単位設定	178
HDMI	157	インジケーターの＋/－方向	178
フリッカー低減	171	Fn1ボタンの機能	179
地域と日時	172	ISO/Fn2ボタンの機能	180
言語（Language）	173	ダイヤル回転方向の変更	180
画像コメント	173	カードなし時レリーズ	181
縦横位置情報の記録	174	GPS	122
セルフタイマー	175	Eye-Fi送信機能※	181
オートパワーオフ時間	175	ファームウェアバージョン	182
撮影直後の画像確認時間	176		

※ この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

関連ページ

「メニュー一覧（ セットアップメニュー）」（📖16）

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□144）。

1 ［カードの初期化（フォーマット）］画面で［はい］を選ぶ

- 初期化をキャンセルするには、［**いいえ**］を選びます。

2 ⓞボタンを押す

- 初期化が始まり、右の画面が表示されます。
- 初期化が完了してセットアップメニュー画面に戻るまで、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。

液晶モニターの明るさ

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して調整できます。＋（プラス）にすると明るく、－（マイナス）にすると暗くなります。

外付けファインダーについて

別売の外付けファインダー（□218）を使用して液晶モニターが眩しく感じるときは、液晶モニターの明るさを暗くしてください。

モニター表示設定

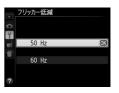
MENUボタン ➜ セットアップメニュー

撮影時のモニター画面に表示する表示オプションを設定します。

情報表示あり	撮影画像と撮影情報を表示します。
情報表示なし	撮影画像だけを表示します。
格子線	構図を決めるための格子状のガイドを表示します。
水準器	カメラが水平になっているか確認するための水準器を表示します。

フリッカー低減

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。お使いの地域の電源周波数に応じて、［**50 Hz**］と［**60 Hz**］から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では［**50 Hz**］を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では［**60 Hz**］を選んでください。

✔ フリッカー低減についてのご注意

被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。撮影モードAまたはMで、絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。

地域と日時

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

言語（Language）

MENUボタン ➜ 🔧セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

画像コメント

MENUボタン ➜ 🔧セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2（□218）のメタデータで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。

- 入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□99）。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます（□129）。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	液晶モニターや付属のViewNX 2、別売のCapture NX 2（□218）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。 横位置　縦位置 時計回りに 90° 回転　縦位置 反時計回りに 90° 回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー［縦位置自動回転］

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□160）では、［**縦横位置情報の記録**］を［**する**］に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

セルフタイマー

MENUボタン ➜ 🔧セットアップメニュー

セルフタイマー撮影時（□62）にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクターの▲または▼を押して、1コマ〜9コマの間で設定できます。

オートパワーオフ時間

MENUボタン ➜ 🔧セットアップメニュー

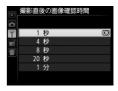
電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。

オートパワーオフ時間の設定について

- インフォ設定画面およびメニュー画面では、3分（固定）で待機状態になります。
- ACアダプター EH-5b（別売）使用時は、30分（固定）で待機状態になります。
- 以下の場合、待機状態になりません。
  - スライドショー再生中
  - Eye-Fiカードを使用した画像の転送中

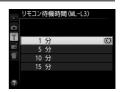
撮影直後の画像確認時間

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

撮影直後に再生される画像が自動的に消灯するまでの時間を設定します。

リモコン待機時間（ML-L3）

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

リモコンモード（□62）に設定してから、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。

- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。

電子音設定

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

電子音の音の高さを［**高音**］と［**低音**］から選べます。

- ［**電子音なし**］を選ぶと、電子音は鳴りません。
- ［**電子音なし**］以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
  - セルフタイマー作動中
  - 2秒リモコン撮影（□62）の作動中
  - 瞬時リモコン撮影（□62）の完了時
  - オートフォーカスのピントが合ったとき、または「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき（ただし、レリーズモードが［▶■］（**動画撮影**）のときは鳴りません）

シャッター音設定

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

シャッターをきったときのシャッター音（電子音）の［**あり**］/［**なし**］を設定します。

電子音設定時の表示について

以下のいずれかの場合は液晶モニターに♪（電子音あり）マークが表示されます。

- ［**電子音設定**］が［**高音**］または［**低音**］に設定されているとき
- ［**シャッター音設定**］が［**あり**］に設定されているとき

連番モード

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
リセット	［**する**］を設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、新しいフォルダーが作成され、0001から連番で画像が記録されます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が 999 に達しているときにファイル番号が 9999 に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、セットアップメニュー［**連番モード**］を［**リセット**］した後、SDカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号＋1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号＋1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

MFゲージ単位設定

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

フォーカスモードをマニュアルフォーカスにしたときに表示される距離ゲージの単位を［**m**］（メートル）と［**ft**］（フィート）から選べます。

インジケーターの＋/－方向

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

露出、オートブラケティングのインジケーターの＋（プラス）と－（マイナス）方向を入れ換えることができます。

+0-	インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
-0+	インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

Fn1ボタンの機能

Fn1ボタンを押したときの動作を設定します。

フラッシュモード設定	Fn1ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**フラッシュモード**］が切り換わります（□105）。
レリーズモード設定	Fn1ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**レリーズモード**］が切り換わります（□59）。
セルフタイマー設定	Fn1ボタンを押すとセルフタイマーモードになります（□62）。もう一度押すとセルフタイマーモードを解除します。
FV-L	Fn1ボタンにFVロック機能を設定します（□111）。内蔵フラッシュ使用時またはスピードライト装着時は、Fn1ボタンを押すと調光量を固定し、もう一度押すと解除します。
AE-L/AF-L	Fn1ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に実行します。
AE-L	Fn1ボタンを押している間、測光モードに応じた部分の露出が固定（AEロック）されます。構図を変えても露出は変わりません。
AE-L（ホールド）	Fn1ボタンを押すとAEロックの状態を保持します。もう一度Fn1ボタンを押すか、オートパワーオフで解除されます。
AF-L	Fn1ボタンを押している間、ピントが固定（フォーカスロック）されます（□72）。
AF-ON	Fn1ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。［**AFモード**］がAF-Sのときは、シャッターボタンを半押ししてもオートフォーカスは作動しません。
露出補正	Fn1ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**露出補正**］の値が切り換わります（□80）。
プラスRAW記録	Fn1ボタンを押した後にシャッターをきると、RAW画像を同時に記録します。一回の撮影を終えるか、もう一度Fn1ボタンを押すと解除します。レリーズモードが［🎥］（**動画撮影**）のときは機能しません。

ISO/Fn2ボタンの機能

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

ISO（Fn2）ボタンを押したときの動作を設定します。

ISO感度設定	ISO（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**ISO感度**］が切り換わります（□74）。
ホワイトバランス設定	ISO（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**ホワイトバランス**］が切り換わります（□82）。
画質モード/画像サイズ設定	ISO（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**画質モード/画像サイズ**］が切り換わります（□64、66）。
測光モード設定	ISO（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**測光モード**］が切り換わります（□78）。
アクティブD-ライティング設定	ISO（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと［**アクティブD-ライティング**］が切り換わります（□103）。
オートブラケティング	ISO（Fn2）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在選択されている［**オートブラケティング**］の内容を設定します（□115）。 AEブラケティング：補正ステップを設定します。 WBブラケティング：補正ステップを設定します。 ADLブラケティング：OFF、ONを設定します。
液晶モニターの明るさ	ISO（Fn2）ボタンを押しながらマルチセレクターの▲または▼を押すと、液晶モニターの明るさが調整できます（□170）。

ダイヤル回転方向の変更

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、コマンドダイヤルとロータリーマルチセレクターを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- ［**露出補正の設定時**］または［**シャッタースピード/絞り値の設定時**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ□になります。
- ［**設定終了**］を選んでⓞボタンを押すと、設定が完了します。

カードなし時レリーズ

MENUボタン ➜ 🔧セットアップメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

LOCK　レリーズ禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK　レリーズ許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［**デモモード**］と表示され、画像は記録できません。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン ➜ 🔧セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、［**有効**］に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、Eye-Fiカードをカメラから取り出してください。設定を［**無効**］に設定していても電波が発信されることがあります。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、液晶モニターのEye-Fi通信マークで確認できます。

- ：［**Eye-Fi送信機能**］が［**無効**］に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：未送信の画像がありません。
- ：エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。

アドホックモードの接続について

Eye-Fiカードでアドホックモードを使う場合は、通信の手続きに時間がかかることがあるため、セットアップメニュー［**オートパワーオフ時間**］を長めに設定してください。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fiカードとワイヤレスモバイルアダプター WU-1aは同時に使用できません。Eye-Fiカードをカメラに挿入しているときは、WU-1aをカメラに接続しないでください。
- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保証するものではありません。
- Eye-Fi カードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。

Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

［**無効**］に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告表示（□236）が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

ファームウェアバージョン

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。

MENUボタン

画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選べません。

メニュー項目	📖
D-ライティング	186
赤目補正	187
トリミング	188
モノトーン	189
フィルター効果	190
カラーカスタマイズ	191
画像合成	192
RAW現像	195
リサイズ	198
簡単レタッチ	200

メニュー項目	📖
傾き補正	200
魚眼効果	201
塗り絵	201
カラースケッチ	202
アオリ効果	203
ミニチュア効果	204
セレクトカラー	205
動画編集	43
編集前後の画像表示※	207

※ 編集前または編集後の画像を1コマ表示してOKボタンを押したときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選び、▶を押します。

2 画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選びます。
- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- 画像を選んでボタンを押すと、編集画面が表示されます。

3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像にはが付きます。

1コマ表示モードで選んだ画像を編集する

1コマ表示モード（□124）で静止画を選んでからⓀボタンを押すと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

静止画を選んでⓀボタンを押す

メニュー項目を選び、Ⓚボタンを押す

選んだ画像を編集する

- ［**画像合成**］および［**動画編集**］は表示されません。

画像編集についてのご注意

- RAW画像とJPEG画像を1枚のSDカードに同時記録した場合（□64）、JPEG画像が画像編集の対象になります（［**画像合成**］と［**RAW現像**］を除く）。
- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらく経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。

繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（［**画像合成**］、［**動画編集**］の［**始点/終点の設定**］を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

画質モードと画像サイズについて

［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］、［**簡単レタッチ**］、［**傾き補正**］、［**魚眼効果**］、［**塗り絵**］、［**カラースケッチ**］、［**アオリ効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**セレクトカラー**］で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE**］、［**画像サイズ**］が［**サイズ L**］のJPEG画像を作成します。

D-ライティング

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの▲または▼を押して、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ⓞボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	⊕	⊕ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、もう一度操作すると表示されます。
拡大率を下げる	⊖（?）	プレビュー画像の拡大再生中は、⊖（?）ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）する	マルチセレクター	プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を終了する	OK	拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する	OK	補正した画像が記録されます。	

✔ 赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする	(?)	(?)ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比（横：縦）を変更する		コマンドダイヤルを回すと、アスペクト比（横：縦）を3：2、4：3、5：4、1：1、16：9に変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード（□64）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比（横：縦）により変わります。

モノトーン

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

［**モノトーン**］を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

フィルター効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像全体の色調を演出できます。

スカイライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。	編集画面では、プレビュー画像を表示します。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	
赤強調	赤色が強調されます。	マルチセレクターで強調の度合い（色の濃さ）を調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロススクリーン	クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋が伸びる効果があります。 • ［**光線の本数**］：光線の本数を、3種類から選べます。 • ［**クロスの量**］：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。 • ［**光線の傾き**］：光線の傾きを3段階から選べます。 • ［**光線の長さ**］：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。	［**確認**］を選んでOKボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。拡大ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は［**保存**］を選んでOKボタンを押してください。

ソフト	ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気に仕上げます。	 ▲または▼を押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。

- ㊖ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセレクターで画像全体の色調を調整できます。 ▲▼◀▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。 グリーンが強くなる ブルーが強くなる アンバーが強くなる マゼンタが強くなる	 色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図：□127）に反映されます。

- ㊖ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で⊕ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に☑（◎/О┳）ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中にマルチセレクターを操作して画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。⊖（?）ボタンを押すと画像を縮小表示します。

画像合成

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

＋
1 画像編集メニュー画面で［画像合成］を選ぶ

- ［**画像合成**］を選んで▶を押すと、右のような画面が表示され、［**画像 1**］欄がハイライト表示されます。

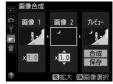
2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- Ⓚボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

3 1コマ目の画像を決定する

- Ⓚボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像 1**］欄にプレビューが表示されます。

4 2コマ目の画像を選ぶ

- ▶を押して［**画像 2**］を選び、手順2〜3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。

5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に［**画像 1**］と［**画像 2**］を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、［**画像 1**］または［**画像 2**］を選んでから▲または▼を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

6 ［プレビュー］欄に移動する

- ◀または▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んでOKボタンを押してください。

7 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、OKボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、Q（?）ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。

8 合成画像を保存する

- もう一度OKボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。

画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（□64）と画像サイズ（□66）は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正値、縦横位置情報など）は、［**画像 1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

RAWを含む画質モード（□64）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で［RAW現像］を選ぶ

- ［**RAW現像**］を選んで▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセレクターを操作してRAW現像する画像を選んでOKボタンを押します。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

3 表示されている項目をそれぞれ設定する

- 作成したJPEG画像の［**色空間**］（□165）の内容は、撮影時ではなく、RAW現像時のカメラの設定になります。

4 RAW現像する

- ［**現像**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、MENUボタンを押してください。

RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- ［**画像合成**］で編集した画像の場合、［**ホワイトバランス**］は選べません。
- ［**ホワイトバランス**］を［**オート**］に設定して撮影した場合は、撮影時に選択されていた設定（［**標準**］または［**電球色を残す**］）を変えることはできません。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（－2～＋2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。
- RAW現像の［**ピクチャーコントロール**］では、調整時のグリッド表示はできません（□96）。

リサイズ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。

複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

1 画像編集メニュー画面で［リサイズ］を選ぶ

- ［**リサイズ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 画像サイズを設定する

- ［**画像サイズの設定**］を選んで▶を押します。

- ▲または▼で画像サイズを選び、Ⓚボタンを押します。

3 ［画像選択］を選ぶ

- ［**画像選択**］を選んで▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

4 リサイズしたい画像を選ぶ

• マルチセレクターを操作して、リサイズしたい画像を選んで、Q⊠（?）ボタンを押します。

• 選択された画像には⊡が表示されます。もう一度Q⊠（?）ボタンを押すと、選択が解除されます。
• Qボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
• リサイズする画像を全て選択したら、Ⓞボタンを押します。

Q⊠（?）ボタン

5 リサイズ画像を作成する

• 確認画面で［**はい**］を選択し、Ⓞボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。

✔ リサイズ画像についてのご注意

• リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
• リサイズ画像の画質モード（□64）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。

簡単レタッチ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセレクターの▲または▼を押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
- ⓞボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

傾き補正

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

傾きを補正する	◀OK▶	マルチセレクターの▶を押すと時計回りに傾き、◀を押すと反時計回りに傾きます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
傾き補正を実行して画像を保存する	OK	傾き補正した画像が記録されます。

魚眼効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

魚眼効果を調節する		マルチセレクターの▶を押すほど、魚眼効果は大きくなり、◀を押すほど小さくなります。
キャンセルする		編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

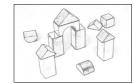
MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ⓞボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

塗り絵処理前　塗り絵処理後

カラースケッチ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

輪郭を抽出して色を付けることで、スケッチ風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。

色の濃さを変える	マルチセレクター	マルチセレクターの▲または▼を押して［**色の濃さ**］を選んでから、▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
線の濃さを変える	マルチセレクター	▲または▼を押して［**線の濃さ**］を選んでから、▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。［**線の濃さ**］を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
カラースケッチ画像を保存する	OK	カラースケッチ画像が記録されます。

アオリ効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

アオリ効果を調節する		マルチセレクターの▲▼◀▶でアオリの効果を変更できます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
アオリ効果を実行して画像を保存する	OK	アオリ効果の画像が記録されます。

アオリ効果処理前

アオリ効果処理後

ミニチュア効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- ［**ミニチュア効果**］を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

操作	ボタン	説明
効果をかける方向を変える	（?）	（?）ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める	▲▼	横方向に効果をかける場合、マルチセレクターの▲または▼を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
	◀▶	縦方向に効果をかける場合、◀または▶を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
効果をかける幅を変える	◀▶	横方向に効果をかける場合、◀または▶で効果をかける幅の広さを選びます。
	▲▼	縦方向に効果をかける場合、▲または▼で効果をかける幅の広さを選びます。
プレビューを表示する		プレビューが表示され、効果を確認できます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する	OK	ミニチュア効果の画像が記録されます。

セレクトカラー

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 **画像編集メニュー画面で［セレクトカラー］を選ぶ**

- ［**セレクトカラー**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

2 **加工する画像を選ぶ**

- マルチセレクターで画像を選び、OKボタンを押します。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

3 **残したい色を抽出する**

- マルチセレクターを操作して、色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
- ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。（?）ボタンを押すと縮小表示します。

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- （/）ボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。

4 **色の感度の枠を選ぶ**

- コマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。

5 抽出する色の感度を設定する

- ▲または▼を押して、抽出する色の感度を［**1**］～［**7**］から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

6 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3～5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで🗑ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、🗑ボタンを押し続けます。確認画面で［**はい**］を選んでⓀボタンを押すと、全ての色をリセットします。

7 決定する

- Ⓚボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してⓄⓀボタンを押したときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（が表示されている画像）または画像編集の元画像のみを選べます。
- 画像を選んでⓄⓀボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。

2 ［編集前後の画像表示］を選ぶ

- ［**編集前後の画像表示**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、［編集前後の画像表示］画面を表示します。

3 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

- OKボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

編集前後の画像表示についてのご注意

次の画像を編集した場合、編集前の画像は表示されません。

- プロテクト（□137）が設定されている画像
- 書き込み禁止スイッチがロックされているSDカード（□22）内の画像

最近設定した項目/マイメニュー

MENUボタンを押してタブのアイコンを選ぶと、［最近設定した項目］画面が表示されます。

最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。マルチセレクターで設定したいメニュー項目を選んで▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。

最近設定した項目を削除するには

［最近設定した項目］画面で削除したい項目を選んで🗑ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

「最近設定した項目」をマイメニューに変更する

［**最近設定した項目**］は、［**このタブの機能変更**］からマイメニュー（🕮210）に変更することもできます。

1 ［最近設定した項目］画面で［このタブの機能変更］を選ぶ

- ［**このタブの機能変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［マイメニュー］を選ぶ

- ［このタブの機能変更］画面で［**マイメニュー**］を選び、㊊ボタンを押します。
- ［**最近設定した項目**］が［**マイメニュー**］に切り換わります。

マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、撮影、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

マイメニューを登録する

1 ［マイメニュー］画面で［マイメニュー登録］を選ぶ

- ［**マイメニュー登録**］を選んで▶を押します。

2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。

3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで㊊ボタンを押します。

4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- ▲または▼で登録する項目の表示位置を選んで、Ⓞボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に⊠が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。

- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録してⓄボタンを押すと、マイメニューに一覧表示されます。

■ 登録した項目を削除する

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の削除］を選ぶ

- ［**登録項目の削除**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目の左側のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✔を入れます。

3 選んだ項目を削除する

- ［**選択終了**］を選んで、Ⓞボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度Ⓞボタンを押すと、選択した項目が削除されます。

ボタン操作で登録した項目を削除するには

［マイメニュー］画面で削除したい項目を選んで🗑ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

■ 登録した項目の表示順序を変える

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の順序変更］を選ぶ

- ［**登録項目の順序変更**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、Ⓚボタンを押します。

3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲または▼で移動したい位置を選んでⓀボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。

4 ［マイメニュー］画面に戻る

MENUボタンを押すと、［マイメニュー］画面に戻ります。

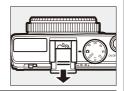
MENUボタン

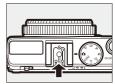
資料

使用できるスピードライト（別売フラッシュ）

このカメラは、別売スピードライトを取り付けることのできるアクセサリーシューを備えています。内蔵フラッシュでは充分に照明できないときなどに、スピードライトを使うと効果的です。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

別売スピードライトをカメラに装着するには

1 アクセサリーシューカバーを取り外す

2 別売のスピードライトをアクセサリーシューに取り付ける

- セーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。
- スピードライトの取り付け方は、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

対応するスピードライトについて

このカメラでは、i-TTL調光に対応した以下のスピードライトに対応しています。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

COOLPIX Aに使用できるスピードライトの最新情報は、最新のカタログや当社ホームページなどでご確認ください。

■ スピードライトの主な仕様

	ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）
SB-910※	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-900※	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-800	38/53（照射角35mm時）
SB-700※	28/39（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-600	30/42（照射角35mm時）
SB-400	21/30

※ カメラのホワイトバランスをAUTO（オート）または⚡（フラッシュ）に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

			対応スピードライト				
			SB-910 SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-400
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※2	○※2	○	○※2	○
	AA	絞り連動外部自動調光	○※3	○※3	—	—	—
	A	外部自動調光	○※3	○※3	—	—	—
	GN	距離優先マニュアル発光	○	○	○	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○※4
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—
発光色温度情報伝達			○	○	○	○	○
FVロック※5			○	○	○	○	○
赤目軽減発光			○	○	○	○	○
カメラからの発光モード設定			—	—	—	—	○
カメラからのスピードライトファームアップ			○	—	○	—	—

※1 スポット測光時は設定できません。
※2 スピードライト側でも設定できます。
※3 AAモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。
※4 カメラ側でのみ設定できます（🕮168）。
※5 i-TTLモードおよび、モニター発光ありのAA、Aモードのときに設定できます。

i-TTL調光について

- モニター発光を行い被写体からの反射光をカメラが測光して、スピードライトの発光を制御します。
- 「i-TTL-BL調光」では、被写体と背景光のバランスを考慮して発光量を制御する、バランス調光を行います。
- 「スタンダードi-TTL調光」では、背景光を考慮せず、主要被写体が基準露光量になるように発光量を制御します。主要な被写体を強調した撮影に適しています。
- i-TTL調光を使って撮影するときは、撮影前にスピードライト側の発光モードをi-TTLにセットしてください（SB-400を除く）。
- SB-700、SB-400使用時は、カメラの［**測光モード**］が［**マルチパターン測光**］または［**中央部重点測光**］時は「i-TTL-BL調光」、［**スポット測光**］時に「スタンダードi-TTL調光」になります。

スピードライトについて

- このカメラでは、スピードライトのアドバンストワイヤレスライティング、オートFPハイスピードシンクロ、マルチエリアAF補助光の各機能は使えません。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600 のオートパワーズーム機能を使うと、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的にセットされます。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600使用時に、2 mより近くにある被写体を撮影すると、画像の周辺が暗くなることがあります。その場合は、ワイドパネルをお使いください。
- スピードライトの「スタンバイ」機能は、撮影時のカメラの電源ONと連動します。レディーライトの点灯はスピードライト側でご確認ください。
- 詳しくは、お使いになるスピードライトの使用説明書をご覧ください。

別売アクセサリー

COOLPIX Aには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

<table>
<tr><td>電源</td><td>

• **パワーコネクター EP-5C、ACアダプター EH-5b**

ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。

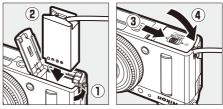
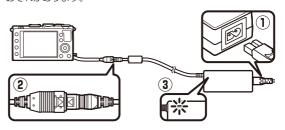
ACアダプターとパワーコネクターは、それぞれ別売です。

<EP-5Cの取り付け方>

バッテリー/SDカードカバーを閉める前に、パワーコネクターのコードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。

パワーコネクター EP-5CのDCプラグコネクターに、ACアダプター EH-5bのDCプラグを差し込みます。

• EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。

</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>ファインダー</td><td>• 光学ファインダー DF-CP1
アクセサリーシューに装着して使用します。35mm判換算28mm相当の画角をカバーします。</td></tr>
<tr><td>ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア</td><td>• Capture NX 2
画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。選択コントロールポイントや自動レタッチブラシなどさまざまな機能を備えています。
• 対応 OS については、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。</td></tr>
<tr><td>リモコン</td><td>• リモコン ML-L3
リモコン用電池（3V CR2025型リチウム電池）の交換方法
①②③④⑤
電池室のノブを右側に押しながら（①）、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して（②）ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「−」の向きをよくご確認ください（④）。
- リモコン用リチウム電池の安全上のご注意（□x）
• リモートコード MC-DC2</td></tr>
<tr><td>GPSユニット</td><td>• GPSユニット GP-1（□122）
アクセサリーターミナルに接続して使用します。画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスモバイルアダプター</td><td>• ワイヤレスモバイルアダプター WU-1a
専用のソフトウェアをインストールしたスマートデバイスと双方向無線通信ができます。詳しくは、カタログや当社ホームページ、WU-1aの使用説明書などをご覧ください。
ワイヤレスモバイルアダプター WU-1aとEye-Fiカードは同時に使用できません。WU-1aを使用するときは、Eye-Fiカードをカメラに入れないでください。</td></tr>
</table>

カメラのお手入れについて

クリーニングについて

アルコール、シンナーなど揮発性の有機溶剤や化学洗剤、防錆剤、曇り止めは使わないでください。

レンズ	• ガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないようご注意ください。 • ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やメガネ拭きなどでガラス部分の中央から外側に円を描くようにゆっくりと拭き取ってください。 • 強く拭いたり、硬いもので拭いたりすると、破損や故障の原因になることがあります。 • 汚れが取れないときは、レンズクリーナー液（市販）で湿らせた柔らかい布で軽く拭いてください。
液晶モニター	• ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。 • 強く拭いたり、硬いもので拭いたりすると、破損や故障の原因になることがあります。
カメラボディー	• ゴミやホコリをブロアーで吹き払ってください。乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。 • 海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。

ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因になります。この場合、当社の保証の対象外になります。

保管について

カメラを長期間お使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、「月に一度」を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

カメラを以下の場所に保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください

カメラを落としたり、ぶつけたりすると、故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください

カメラ内部に水が入ると、部品がサビつくなど修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください

温度差が極端な場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆の場合）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に結露が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使ってください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は、撮像素子などの褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際に撮影した画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● バッテリーやACアダプター、メモリーカードを取り外すときは、必ず電源をOFFにしてください

電源がONの状態で取り外すと、故障の原因になります。特に撮影中やデータの削除中は、データの破損やカードの故障の原因になります。

● モニター画面について

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では液晶モニターは、日差しの影響で見えにくいことがあります。
- 液晶モニターの表面を強くこすったり、強く押したりすると、破損や故障の原因になります。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますのでご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、ご注意ください。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

- 使用後のバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が0℃～40℃の範囲を超える場所で使うと、性能劣化や故障の原因になります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたら、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

- 撮影の前に充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりません。
- 周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。
- バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になったりし、性能劣化の原因にもなります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。
  バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
  バッテリーの温度が0℃～10℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が減ることがあります。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電すると、性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影環境に応じて、予備バッテリーをご用意ください。地域によっては入手が困難な場合があります。

● 低温時には残量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーも用意する

バッテリーは一般的な特性として、性能が低温時に低下します。低温時には、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが動かないこともあります。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温で一時的に使えなかったバッテリーも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリーの接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがあります。接点の汚れは、乾いた布で拭き取ってください。

● 残量のなくなったバッテリーは充電する

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーを使わないときは、必ずカメラやチャージャーから取り出してください。取り付けたままにすると、電源を切っていても微小電流が流れ続けて過放電状態になり、使えなくなることがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは、付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥した場所をおすすめします。暑い場所や極端に寒い場所は避けてください。

● 寿命について

バッテリーを充分に充電しても、使用期間が極端に短くなってきたときは、寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にビニールテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

チャージャーについて

- 付属のチャージャーは、ニコンLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20以外には使えません。
- このチャージャーは、家庭用電源のAC 100～240 V、50/60 Hzに対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。

撮影モード別：設定できる機能一覧

それぞれの撮影モードごとに、設定できる機能とできない機能をまとめています。表の見方は次の通りです。

- ● ：設定できます。ツーボタンリセット（□113）で初期設定に戻ります。
- ◎ ：設定できます。撮影モードを切り換えると、初期設定に戻ります。
- ○ ：設定できます。撮影メニュー［**撮影メニューのリセット**］（□163）で初期設定に戻ります。
- △ ：設定できます。
- － ：設定できません。

撮影モード [AUTO]、P、S、A、M、[ポートレート]、[風景]、[こどもスナップ]、[スポーツ]、[クローズアップ]、[夜景ポートレート]、[夜景]

		[AUTO]	P	S	A	M	[ポートレート]	[風景]	[こどもスナップ]	[スポーツ]	[クローズアップ]	[夜景ポートレート]	[夜景]
撮影メニュー	記録フォルダー設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	画質モード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○
	画像サイズ	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○
	ホワイトバランス	–	● ○	● ○	● ○	● ○	–	–	–	–	–	–	–
	ピクチャーコントロール	–	●※1 ○	●※1 ○	●※1 ○	●※1 ○	–	–	–	–	–	–	–
	色空間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アクティブD-ライティング	–	● ○	● ○	● ○	● ○	–	–	–	–	–	–	–
	長秒時ノイズ低減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高感度ノイズ低減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ISO感度設定	● ○※2	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○※2	● ○※2	● ○※2	● ○※2	● ○※2	● ○※2	● ○※2
	レリーズモード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○
	内蔵AF補助光の照射設定	○	○	○	○	○	○	–	○	–	○	○	–
	フラッシュ使用時の露出補正	–	○	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光	–	○	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	オートブラケティングのセット	–	○	○	○	○	–	–	–	–	–	–	–

※1 ツーボタンリセットの場合は、現在選択中のピクチャーコントロールの調整値がリセットされます。

※2［**感度自動制御**］は設定できません。

		[オート]	P	S	A	M	[ポートレート]	[風景]	[こどもスナップ]	[スポーツ]	[クローズアップ]	[夜景ポートレート]	[夜景]
撮影関連の設定	AFモード	● ◎ ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○
	AFエリアモード	–	● ○	● ○	● ○	● ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○
	測光モード	–	● ○	● ○	● ○	● ○	–	–	–	–	–	–	–
	露出補正	–	● ○	● ○	● ○	● ○	–	–	–	–	–	–	–
	オートブラケティング	–	●	●	●	●	–	–	–	–	–	–	–
	フラッシュモード	● ◎ ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ◎ ○	–	● ◎ ○	–	● ◎ ○	● ◎ ○	–
	調光補正	–	● ○	● ○	● ○	● ○	–	–	–	–	–	–	–
セットアップメニュー	セルフタイマー	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	オートパワーオフ時間	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	撮影直後の画像確認時間	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	リモコン待機時間（ML-L3）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	電子音設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	シャッター音設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	連番モード	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	MFゲージ単位設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	インジケーターの＋/－方向	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	Fn1ボタンの機能	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ISO/Fn2ボタンの機能	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ダイヤル回転方向の変更	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	カードなし時レリーズ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

撮影モード Hi、Lo

												Hi	Lo
撮影メニュー	記録フォルダー設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	画質モード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○
	画像サイズ	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○
	ホワイトバランス	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	ピクチャーコントロール	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	色空間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アクティブD-ライティング	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	長秒時ノイズ低減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高感度ノイズ低減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ISO感度設定	● ○※	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○※	● ○※	● ○※	● ○※	● ○※	● ○※	● ○※
	レリーズモード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○
	内蔵AF補助光の照射設定	○	–	–	–	–	○	○	○	○	○	○	○
	フラッシュ使用時の露出補正	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	オートブラケティングのセット	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

※［**感度自動制御**］は設定できません。

撮影関連の設定	AFモード	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○
	AFエリアモード	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○	● ◎ ○
	測光モード	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	露出補正	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	オート ブラケティング	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	フラッシュ モード	● ◎ ○	–	–	–	● ◎ ○	–	–	–	–	–	–	–
	調光補正	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
セットアップメニュー	セルフタイマー	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	オートパワーオフ 時間	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	撮影直後の画像 確認時間	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	リモコン待機時間 (ML-L3)	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	電子音設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	シャッター音 設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	連番モード	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	MFゲージ単位 設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	インジケーターの +/−方向	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	Fn1ボタンの機能	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ISO/Fn2ボタンの 機能	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ダイヤル回転 方向の変更	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	カードなし時 レリーズ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態で、カメラの操作ができない

- 画像や動画の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
  - 記録中であったデータは保存されません。
  - 保存済みのデータはバッテリーや AC アダプターの取り外しでは失われません。

● 液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

セットアップメニュー［**オートパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます（🕮175）。

撮影関連（全撮影モード共通）

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるSDカードが入っていますか？（🕮21、24）
- SDカードがロックされていませんか？（🕮22）
- 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません。

● リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない

- リモコンの電池残量はありますか？（🕮218）
- 内蔵フラッシュの充電中は、シャッターがきれません。
- ML-L3の送信ボタンを押す前にセットアップメニュー［**リモコン待機時間（ML-L3）**］を過ぎると、カメラの電源がOFFになります（🕮176）。
- 極端な逆光状態などでは、ML-L3でのリモコン撮影ができない場合があります。

● **ピントが合わない**

- マニュアルフォーカスになっていませんか？　オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください（□68）。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（□72、73）。
  被写体が非常に暗い/画面内の輝度差が非常に大きい/被写体にコントラストがない/遠いものと近いものが混在する/同じパターンを繰り返す被写体/動きが速い

● **AFエリアモードを変更できない**

撮影モードが📷（オート）になっていませんか？（□70）

● **連続撮影できない**

内蔵フラッシュが発光する場合は、連続撮影できません（□60）。

● **画像サイズを変更できない**

［**画質モード**］が［**RAW**］のときは、画像サイズを変更できません（□64）。

● **画像の記録に時間がかかる**

撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？（□166）

● **画像がざらつく**

- ISO 感度が高くなっていませんか？　撮影メニュー［**高感度ノイズ低減**］を［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］のいずれかに設定すれば、ざらつきを低減できます（□166）。
- シャッタースピードが 1 秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、ざらつきを低減できます（□166）。
- アクティブD-ライティングを設定していませんか？　撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります（□103）。

● **AF補助光が光らない**

- 被写体が明るい場合はAF補助光を照射しません。
- AF エリアモード、AF エリアの位置およびシーンモードの種類によっては、AF補助光を照射しません。
- 撮影メニュー［**内蔵 AF 補助光の照射設定**］が［**しない**］になっていませんか？（□167）

● **画像にゴミが写り込む**

レンズの前面が汚れていませんか？

● **動画に音声が録音されない**

撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］が［**録音しない**］になっていませんか？（□40）

● 液晶モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う

次の条件で撮影した場合、液晶モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさが異なることがあります。

- 測光モードが、中央部重点測光またはスポット測光（□78）のとき
- 撮影モードがMのとき
- 被写体が明るすぎるまたは暗すぎるとき
- アクティブD-ライティング設定時（□103）
- フラッシュ撮影時（□105）

● 液晶モニターが暗くて見えない

［**液晶モニターの明るさ**］（□170）が、－（マイナス）側になっていませんか？明るさの設定を＋（プラス）側に調整してください。

● 画面にちらつきや横縞が生じる

セットアップメニュー［**フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください（□171）。

● 画面に横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 選択または設定できないメニュー項目がある

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選べません（□224）。

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□82）
- 撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］は正しく設定されていますか？（□92）

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□89）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□90）。

● WBブラケティング撮影ができない

RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、WBブラケティング撮影はできません（□64、116）。

● ［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない
［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください（◻96）。

● 測光モードが変更できない
AEロック中は、測光モードを変更できません。

● 露出補正ができない
撮影モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません。

● 画像の一部が赤っぽくなる
長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（◻166）。

● 画像にむらが出る
長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出ることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（◻166）。

再生関連

● RAW画像が表示されない
［**画質モード**］を［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません（◻64）。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない
この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない
再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（◻159）。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない
- 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？（◻160）
- セットアップメニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？（◻174）
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません（◻159）。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります（◻174）。

● 画像が削除できない
- SDカードがロックされていませんか？（◻22）
- 画像にプロテクトが設定されていませんか？（◻137）

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です（□185）。

● ［撮影画像がありません］と表示される

SDカードの交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（□159）。

● プリント指定ができない

- SDカードがロックされていませんか？（□22）
- SDカードの空き容量が不足していませんか？（□24）

● ダイレクトプリントができない

RAW画像はダイレクトプリントできません（□150）。

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの［**RAW現像**］などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください（□195）。
- RAW画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください（□218）。

● 画像がHDMI対応機器で再生できない

市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください（□155）。

● HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない

- セットアップメニューの［**HDMI**］の［**機器制御**］が［**する**］になっているか確認してください（□157）。
- テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります（□144）。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● Capture NX 2で画像が表示されない

ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？（□218）

● ［ピクチャーコントロール］または［アクティブD-ライティング］の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像は付属のViewNX 2や、別売のCapture NX 2をお使いください。

その他

- **撮影日時が正しく表示されない**

  カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□23、172）。

- **表示されているメニュー項目が選べない**
  - SDカードをカメラに挿入していないときは、選べない項目があります。
  - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。

警告メッセージ

液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

表示	対処方法	📖
撮影できません。 バッテリーを交換してください。	残量のあるバッテリーに交換してください。	24
起動エラーが発生しました。 復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	• 電源を一度OFFにしてから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。	3
（シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかまたは露出インジケーターが点滅）	被写体が明るすぎる場合、次の操作を行ってください。 • ISO感度を低くしてください。 • 撮影モードが**S**のときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 撮影モードが**A**のときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。	 74 50 51
	被写体が暗すぎる場合、次の操作を行ってください。 • ISO感度を高くしてください。 • 撮影モードが**P**のときはフラッシュを使用してください（**S**、**A**のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 撮影モードが**S**のときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 撮影モードが**A**のときは絞りを開いてください（より小さい数値）。	 74 105 50 51
バルブ設定ではシャッタースピード優先オート［**S**］の撮影はできません。シャッタースピードをバルブ以外に設定するか撮影モードをマニュアル［**M**］に設定してください。	• シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モード**M**で撮影してください。	50、 52

表示	対処方法	📖
メモリーカードの空き容量が足りません。 低い画質モードや小さい画像サイズに変更してファイルサイズを小さくすれば、撮影できることがあります。	• 画質モードまたは画像サイズを変更してください。 • SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。	64、66 138 21
何らかの異常を検出しました。 復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	電源を一度OFFにしてから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。	3
メモリーカードが入っていません。	SDカードを正しくセットしてください。	21
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。 カードを交換してください。	• このカメラ用の SD カードであるかどうかを確認してください。 • SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご連絡願います。 • SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。 • セットアップメニューの［**Eye-Fi 送信機能**］を［**無効**］にしても、電波が出力される場合があります。カメラの電源をOFFにしてからEye-Fiカードを取り出し、SDカードに交換してください。	244 251 138 21 181
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	SDカードのロックを解除してください。	22
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	22
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。 フォーマットしてください。	• SDカードを初期化してください。 • 正しく初期化された SD カードに交換してください。	170 21
時計がリセットされました。	日時を設定してください。	23、172

表示	対処方法	📖
接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。サービス機関にお問い合わせください。	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。 ニコンサービス機関にご相談ください。	251
撮影画像がありません。	• 画像が記録されている SD カードを入れてください。 • 再生メニューの [**再生フォルダー設定**] で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	21 159
このファイルは表示できません。	• パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	—
このファイルは選択できません。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	185
レンズエラー	レンズの作動不良です。電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	3
プリンターの状態を 確認してください。※	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、[**継続**] を選んで㊍ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、[**継続**] を選べない場合があります）。	147
用紙を確認してください。※	指定したサイズの用紙をセットした後、[**継続**] を選んで㊍ボタンを押して、プリントを再開してください。	147
紙詰まりです。※	詰まった用紙を取り除いた後、[**継続**] を選んで㊍ボタンを押して、プリントを再開してください。	147
用紙がありません。※	指定したサイズの用紙をセットした後、[**継続**] を選んで㊍ボタンを押して、プリントを再開してください。	147
インクを確認してください。※	インクを確認した後、[**継続**] を選んで㊍ボタンを押して、プリントを再開してください。	147

表示	対処方法	📖
インクがありません。※	インクを交換した後、［**継続**］を選んで ㊍ボタンを押して、プリントを再開してください。	147

※プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコン デジタルカメラ COOLPIX A

項目		仕様
型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		1616万画素
撮像素子		23.6×15.6 mmサイズCMOSセンサー、ニコンDXフォーマット、総画素数1693万画素
レンズ		NIKKORレンズ
	焦点距離	18.5 mm（35mm判換算28 mm相当の撮影画角）
	開放F値	f/2.8
	レンズ構成	5群7枚
オートフォーカス		コントラスト検出方式
	撮影距離範囲	• 先端レンズ面中央から約50 cm～∞ • マクロAF時は先端レンズ面中央から約10 cm～∞
	AFエリア	顔認識、ワイドエリア、ノーマルエリア、ターゲット追尾
画像モニター		広視野角3型TFT液晶モニター、反射防止コート付き、約92万ドット、輝度調節機能付き（9段階）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約100%（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式		
	記録媒体	SD/SDHC/SDXCカード
	対応規格	DCF、Exif 2.3、DPOF、PictBridge準拠
	ファイル形式	静止画：JPEG、RAW（NEF、ニコン独自フォーマット） 動画：MOV（映像：H.264/MPEG-4 AVC、音声：リニアPCMステレオ）
記録画素数		• サイズ L［4928×3264］ • サイズ M［3696×2448］ • サイズ S［2464×1632］
ISO感度（推奨露光指数）		• ISO 100～3200 • ISO 6400、Hi 0.3（ISO 8000相当）、Hi 0.7（ISO 10000相当）、Hi 1（ISO 12800相当）、Hi 2（ISO 25600相当）（［**ISO感度**］で設定可能）
露出		
	測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、スポット測光

項目		仕様
露出		
	露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、AEブラケティング可能、露出補正（静止画は±5段、動画は±2段の範囲で1/3段刻み）可能
シャッター方式		メカニカルシャッターとCMOS電子シャッターの併用
	シャッタースピード	1/2000～30秒、Bulb※、Time※ ※撮影モードM時。Timeは別売のリモコン ML-L3を使用
絞り		電磁駆動による7枚羽根虹彩絞り
	制御段数	19（1/3EVステップ）
セルフタイマー		約20秒、約10秒、約5秒、約2秒
内蔵フラッシュ		
	調光範囲	約0.5～11.5 m（撮影モード[カメラ]、ISO感度設定オート時）
	調光方式	モニター発光によるTTL自動調光、マニュアル発光可能、ガイドナンバー約6（マニュアルフル発光時約6）（ISO 100・m、23℃）
調光補正		範囲 －3～＋1段、補正ステップ1/3ステップ
アクセサリーシュー		ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付き
インターフェース		Hi-Speed USB
	通信プロトコル	PTP
HDMI出力		オート、480p、576p、720p、1080iから選択可能
入出力端子		• デジタル端子（USB） • HDMIミニ端子（Type C）（HDMI出力） • アクセサリーターミナル
表示言語		日本語、英語
電源		• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20（リチウムイオン充電池：付属）×1個 • ACアダプター EH-5b（パワーコネクター EP-5Cを組み合わせて使用）（別売）
電池寿命※1		
	静止画撮影時	約230コマ（EN-EL20使用時）
	動画撮影時（実撮影電池寿命）※2	約1時間10分（EN-EL20使用時）
三脚ネジ穴		1/4（ISO 1222）
寸法（幅×高さ×奥行き）		約111.0×64.3×40.3 mm（突起部除く）

質量	約299 g（バッテリー、SDメモリーカード含む）

動作環境	
使用温度	0℃～40℃
使用湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格による温度条件23℃（±3℃）で、フル充電バッテリー使用時のものです。

※1 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。
静止画の測定条件は、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**サイズ L**］（4928×3264）です。
動画設定は、［**1920×1080 30p**］または［**1920×1080 25p**］です。
数値は、撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などの使用環境によって異なります。

※2 動画の連続撮影可能時間（1 回の撮影で記録可能な時間）は、SD カードの残量が多いときでも最長20分または29分59秒までです（□39）。
カメラが熱くなった場合、連続撮影可能時間内でも動画撮影が終了することがあります。

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC7.2 V、1020 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約30.7×50.0×14.0 mm
質量	約41 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-27

電源	AC 100～240 V、50～60 Hz、0.2 A
定格入力容量	13～21 VA
充電出力	DC 8.4 V、0.6 A
適用充電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL20
充電時間	約2時間　※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約67.0×28.0×94.0 mm
質量	約83 g

説明書について

- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system（DCF）：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF（Digital Print Order Format）：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif（Exchangeable image file format）Version 2.3：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTimeは米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

■ AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

（i）AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

（ii）個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

http://www.mpegla.comをご参照ください。

使用できるSDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB、128 GB
TOSHIBA			64 GB
Panasonic			
Lexar	—		64 GB、128 GB

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

記録可能コマ数

画質モード（□64）と、画像サイズ（□66）の組み合わせによって、4 GBのSDカードに記録できるおよそのコマ数は、次のようになります。画像の絵柄や撮影条件によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画質モード	画像サイズ	記録可能コマ数（4 GB）
RAW	—	約 160コマ
FINE	L	約 410コマ
	M	約 720コマ
	S	約1600コマ
NORMAL	L	約 810コマ
	M	約1400コマ
	S	約3000コマ
BASIC	L	約1600コマ
	M	約2700コマ
	S	約5500コマ

動画の記録可能時間

4 GBのSDカードに記録可能な総時間の目安は以下のとおりです。実際に記録可能な時間は、同じメモリー容量と動画の設定でも、画像の絵柄や被写体の動きによって異なります。SDカードの種類によっても、記録可能時間が異なることがあります。

	画像サイズ/フレームレート		記録可能時間（★高画質/標準）※（4 GB）
	解像度（ピクセル）	フレームレート	
1080P★30/1080P30	**1920×1080**	**30p**	約20分/約35分
1080P★25/1080P25	**1920×1080**	**25p**	
1080P★24/1080P24	**1920×1080**	**24p**	
720P★30/720P30	**1280× 720**	**30p**	約35分/約55分
720P★25/720P25	**1280× 720**	**25p**	
720P★24/720P24	**1280× 720**	**24p**	約45分/約1時間10分

※ 動画の連続撮影可能時間（1回の撮影で記録可能な時間）は、SDカードの残量が多いときでも最長20分または29分59秒までです（□39）。撮影時の画面には、1回の撮影で記録可能な時間が表示されます。カメラが熱くなった場合、連続撮影可能時間内でも動画撮影が終了することがあります。

索 引

マーク・英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン　カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30 ～ 18:00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03） 5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け･集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155

営業時間：9:00～18:00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。
　製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター>

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03） 6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

<ニコンイメージング／サポートページ>

- http://www.nikon-image.com/support/
  最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。
  ※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。
- http://www.nikon-image.com/support/repair/
  「ニコン　ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

SB3C02(10)
6MN05710-02